

NECパーソナルコンピュータ

PC-9800シリーズ

98MATE

98

ソフトウェアセットアップガイド

NEC

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響については、(3) 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ・ 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

OS/2、OS/2 Warp、WIN-OS/2は、米国IBM Corporationの商標です。

NetWareは米国Novell, Inc.の登録商標です。

TGUI9682はTrident Microsystems, Inc.の商標です。

その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1997

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

AN7A1A

808-882706-014-A



本書では、本機にインストールされているMS-DOSのバックアップ／再インストール方法や別売りのOSを使用するためのアップグレード方法や注意事項について説明しています。

このマニュアルの構成

なお、このマニュアルは次の機種を対象にしています。

- PC-9821 Ra266/D30R
- PC-9821 Xa20/D30R

Part 1 本機の機能を利用する

ハードディスクのバックアップ方法や、再インストール方法について説明します。
また、MS-DOS6.2を利用するための注意事項についても説明します。

Part 2 ソフトウェアの利用

本機で別売りのOSを利用するために必要な知識や注意事項について説明します。
対象OSは次のとおりです。

- | | |
|---------------|--------------|
| • Windows 3.1 | • Windows 95 |
| • Windows NT | • OS/2 |
| • NetWare | など |

付録

固定ディスク起動メニューを利用する際の必要事項について説明しています。

■ソフトウェアの最新情報のお知らせ

製品の最新情報、ソフトウェアのアップデートサービスの情報(ソフトウェアの強化・修正情報、モジュールの入手情報)を、FAXサービス、パソコン通信、インターネットでご案内しております。

- **NECパソコン情報FAXサービス**

FAX

東京：(03)3769-9821

大阪：(06)304-9821

- **パソコン通信**

PC-VAN

NECパソコン情報 (J NECPC)

NIFTY-Serve

NEC Information Center Forum (GO FNECINFO)

- **インターネット**

98 Information

URL <http://www.nec.co.jp/98/>

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性があります。



参考にしていただきたいことを説明しています。



参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

Windows	別売のWindows 95と別売のWindows 3.1の両方を指します。
Windows NT	別売のWindows NT 4.0と別売のWindows NT 3.51の両方を指します。
MS-DOS	MS-DOS® 全般を指します。 特に必要な場合は、バージョン名を記載します。
MS-DOSモード	別売のWindows 95のMS-DOSプロンプトの状態を指します。
[XXX]	[]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。 例：[OK]ボタン
[ESC]	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。

MS-DOSのコマンド書式で使用されている記号には、次のような意味があります。

< >	この中の項目は、必ず入力します。
[]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
 	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

記載されているアプリケーションなどの製品の正式名称は、以下のとおりです。

本文中の表記	正式名称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system
Windows 3.1	Microsoft® Windows® operating system Version 3.1
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51

本文中で使われている用語で、わからない用語が出てきた場合は、『ガイドブック』の付録の「パソコン用語集」をご覧ください。

目次

はじめに

このマニュアルの構成	iv
このマニュアルの表記について	vi

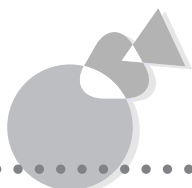
Part 1 本機の機能を利用する

ハードディスクのバックアップ	2
バックアップしたディスクからの再セットアップ	5
MS-DOS 6.2の利用	7

Part 2 ソフトウェアの利用

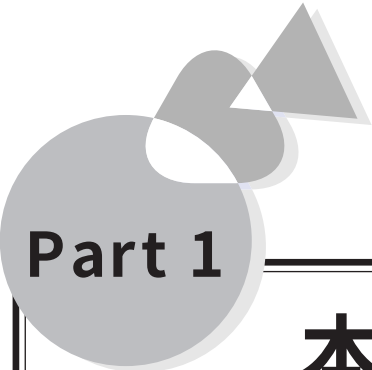
Windows 3.1を利用する	14
Windows 3.1の利用	14
Windows 95を利用する	21
Windows 95の利用	21
ネットワークの利用	29
オプションボードの設定	32
オプションカードの設定	34
MS-DOSモードで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する	35
注意事項	36
Windows NTを利用する	38
Windows NT 3.51の利用	38
Windows NT 4.0の利用	53
OS/2を利用する	63
OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、 OS/2 Warp 4-日本語版の利用	63
NetWareを利用する	67
NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用	67
NetWare® 4.1J(ファイルサーバ)の利用	74
Intranetware/NetWare® 4.11J (ファイルサーバ)の利用	78
Netware® 3.12J/4.1J(クライアント)の利用	80

その他のソフトウェアを利用する	82
N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)Ver6.2の利用	82
MS LANマネージャの利用	83
TCP/IP通信制御ドライバの利用	88
プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用	90



付録

固定ディスク起動メニューの利用	94
-----------------------	----



Part 1

本機の機能を利用する

Part 1

本機の機能を利用する

ハードディスクのバックアップ方法や、再インストール方法について説明します。

また、MS-DOS6.2を利用するための注意事項についても説明します。

- ハードディスクのバックアップ
- バックアップしたディスクからの再セットアップ
- MS-DOS6.2の利用

ハードディスクのバックアップ

ここでは、本機にインストールされているMS-DOS6.2のシステムや別売りのOSを使用する場合に必要なファイルを保存用フロッピーディスクにバックアップする手順について説明します。この保存用フロッピーディスクを使うと、MS-DOS6.2に障害が発生した場合に、購入時の状態に復元することができます。

保存用フロッピーディスクの作成は、本機を購入後、はじめて電源をONにした際に行ってください。

■バックアップに関する注意

- ・ ファイルの削除や変更を行った後にバックアップを行うと、購入時の状態に戻せなくなります。本機の電源をはじめてONにした時に必ずバックアップを行ってください。
- ・ 本機には、MS-DOS6.2のシステム以外に、別売りのOSを使用する場合に必要なファイルもインストールされています。また、別売のMS-DOS6.2はご利用になれません。必ずバックアップを取っておいてください。
- ・ ここで説明しているバックアップ方法は、本機購入時にあらかじめインストールされているMS-DOS6.2のシステムやファイルに対するものです。お客様ご自身が、後からインストールされたアプリケーションや、作成されたデータはバックアップされません。アプリケーションやデータのバックアップは、QBACKUPコマンドを使用してください。QBACKUPコマンドについては、『MS-DOS6.2ユーザーズマニュアル』をご覧ください。
- ・ バックアップには約40分かかります。画面の内容を読んだり、確認するのにかかる時間によっては、これより長くなることがあります。

■準備するもの

バックアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ 2HDフロッピーディスク:13枚

これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#1」

「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#2」

...

「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#13」



バックアップを行うと、これらのフロッピーディスクは、1.2 Mバイトでフォーマットされ、以前の内容はすべて失われます。

■保存用フロッピーディスクの作成

- 1 本体の電源をONにします。
- 2 次の画面が表示されます。[実行]を選択して  キーを押します。

MS-DOSシステム保存ユーティリティ Ver 6.00

Copyright © NEC Corporation 1992, 1995 -

固定ディスクに入っているMS-DOSシステムをフロッピーディスクに
バックアップし、保存用フロッピーディスクを作成します

フロッピーディスク(2HD)を13枚用意してください

注意: フロッピーディスクの元の内容は失われます

フロッピーディスクに次のとおり記入したラベルを貼付してください

1枚目 MS-DOS 6.2 保存用フロッピーディスク#1

2枚目 MS-DOS 6.2 保存用フロッピーディスク#2

13枚目 MS-DOS 6.2 保存用フロッピーディスク#13

準備ができたら「実行」を選択してください

(ESCキーを押すと処理を中止することができます)

実行 中止

- 3 「「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#1」のラベルを貼ったフロッピーディスクをドライブに挿入してください」というメッセージが表示されます。
「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセットして、[実行]を選択し、 キーを押します。



バックアップ中は、電源をOFFにしたり、 キーを押したりしないでください。

- 4 画面の指示に従って、フロッピーディスクを入れ替えます。
- 5 「MS-DOSシステムのファイルの保存が終了しました」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクを抜いて  キーを押します。

以上でバックアップは終了です。

保存用フロッピーディスクは、ライトプロテクト(書き込み禁止)して、大切に保管してください。ライトプロテクトについては『ガイドブック』をご覧ください。

《参考 バックアップを取らなかった場合について》

初めての電源ON時にバックアップを取らなかった場合、2回目以降の電源ON時に「MS-DOSシステム保存ユーティリティ」が起動します。

「MS-DOSシステム保存ユーティリティ」を起動しないようにするには、次の手順を行ってください。

- 1 「MS-DOSシステム保存ユーティリティ」の画面で[中止]を選択します。
- 2 MS-DOSのメニューが表示された場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にします。
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、\ (ルート) ディレクトリのAUTOEXEC.BATおよびOKSAVE.BATを削除します。
お客様ご自身がAUTOEXEC.BATファイルを編集した場合は、手順4の後に再度設定を行ってください。

```
CD \  
DEL AUTOEXEC.BAT  
DEL OKSAVE.BAT
```

- 4 コマンドプロンプトから次のように入力して、DOS ディレクトリのAUTOEXEC.ORGファイルを\ (ルート) ディレクトリにAUTOEXEC.BATというファイル名でコピーします。

```
COPY DOS\AUTOEXEC.ORG AUTOEXEC.BAT
```

以上で完了です。

バックアップを取らなかった場合や、再度バックアップを取り直したい時は、コマンドプロンプトから次のように入力してください。

```
\DOS\SYSBACK /B
```

バックアップしたディスクからの再セットアップ

ここでは、「ハードディスクのバックアップ」で作成した保存用フロッピーディスクを使って、再セットアップする方法を説明します。

■再セットアップが必要になるとき

次のような状況のときに、本機を再セットアップしてください。

- ・ハードディスク内のシステムファイルを誤って消してしまった
- ・コマンドが正常に実行されなくなった

■再セットアップに関する注意

- ・保存用フロッピーディスクで再セットアップできるのは、本機購入時にあらかじめインストールされているMS-DOS6.2のシステムやファイルのみです。お客様ご自身が、後からインストールされたアプリケーションや、作成されたデータは再セットアップされません。
- ・ハードディスクにファイルをコピーできないような障害が発生した場合には、ハードディスクを初期化する旨のメッセージが表示されます。初期化するとハードディスク内のデータが全て消えますので、必要なファイルはバックアップを取っておいてください。
- ・再セットアップはハードディスクの第1パーティションの領域に対して行います。ハードディスクを複数に分割した場合、1番目の領域を第1パーティションといいます。
- ・本機にインストールされているMS-DOS6.2は本機専用です。他の機種での使用については動作保証をしておりません。
- ・再セットアップには、約20分かかります。画面の内容を読んだり、確認するのにかかる時間によっては、これより長くなることがあります。

■準備するもの

「ハードディスクのバックアップ」の手順で作成した「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#1」～「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#13」を用意してください。

■再セットアップ

1 「MS-DOS6.2 保存用フロッピーディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセットし、本機の電源をONにします。

2 次の画面が表示されます。[実行]を選択して $\boxed{\text{↵}}$ キーを押します。

MS-DOS システム復元ユーティリティ Ver 6.00
Copyright © NEC Corporation 1992,1995 -

保存用フロッピーディスクを用意して、固定ディスク内の MS-DOS を復元します

保存用フロッピーディスク #1 ~ #13をご用意ください

準備ができたなら「実行」を選択してください

(ESCキーを押すと処理を中止することができます)

実行 中止

3 「保存用フロッピーディスク#1をドライブに挿入してください」というメッセージが表示されます。[実行]を選択し、 $\boxed{\text{↵}}$ キーを押します。

4 画面の指示に従って、フロッピーディスクを入れ替えます。

5 「MS-DOSシステムのファイルの復元が終了しました」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出し、 $\boxed{\text{↵}}$ キーを押します。
自動的に再起動されます。

以上で再セットアップは終了です。

MS-DOS 6.2の利用

ここでは、本機にインストールされているMS-DOS 6.2を利用する場合の注意事項や強化機能について説明します。



別売のMS-DOS6.2はご利用になれません。

■MS-DOS 6.2での複数台CD-ROMドライブの利用

ここではMS-DOS 6.2上でCD-ROMドライブを複数台同時に使用する場合には必要となる設定方法や注意事項を説明します。



次のCD-ROMドライブを接続している場合は、複数台接続の設定はできません。

- PC-ODX
- PC-CD800
- PC-CD60/7
- PC-CD400D/4
- PC-ODXD
- PC-ODX66
- NEC製以外のCD-ROMドライブ



MS-DOS 6.2上で接続できるCD-ROMドライブはSCSI接続が4台まで、本体内蔵の専用インターフェイス接続が1台までで、合計最大5台までです。

●CD-ROMドライブの複数台接続の設定

CD-ROMドライブの複数台接続の設定は、INSTCDコマンドを使用して行います。INSTCDコマンドは、起動ドライブのCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルにCD-ROMの複数台接続の設定を自動的行います。INSTCDコマンドを使用するには、次の条件が全て満たされている必要があります。

- 1台目のCD-ROMドライブが使用可能な設定になっている。
- ハードディスクにインストールされているMS-DOS 6.2から起動している。
- MS-DOS 6.2がインストールされているディレクトリが、環境変数DOSDIRに正しく設定されている。
- AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」で指定したドライブ番号が、増設するCD-ROMドライブのドライブ番号を連続して確保できる設定になっている。

INSTCDコマンドを実行するには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

INSTCD 



INSTCDコマンドはWindowsのMS-DOSプロンプトおよびDOSシェルからは実行できません。



ネットワークドライブが存在する場合や、SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが存在する場合、INSTCDコマンド実行後に以下の現象が起こることがあります。

- ・ ネットワークドライブが使用できなくなる
- ・ SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが使用できなくなる
- ・ CD-ROMドライブが使用できなくなる

このような場合は、次の手順でCD-ROMドライブの接続設定を再度行くと、従来の環境どおりにご利用になれます。

- ①INSTCDコマンドでCD-ROMドライブの接続設定を行う。
- ②SEDITなどのエディタを使用して、ネットワークドライブや仮想ドライブのドライブ指定やAUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」のドライブ指定を他のドライブの割り当てと重複しないよう変更する。

●CD-ROMドライブの複数台接続の解除

CD-ROMドライブの複数台接続の設定を解除するには、次の手順で行ってください。

- 1 SEDITなどのエディタを使用して、CONFIG.SYSファイルおよびAUTOEXEC.BATファイルのCD-ROMの設定行の先頭に、すべて「REM」を追記して、CD-ROMドライブの接続設定を無効にします。

例 <CONFIG.SYSファイル>

```
REM DEVICE=A:¥DOS¥NECCD.SYS /D:CD_101
REM DEVICE=A:¥DOS¥NECCDB.SYS /D:CD_B
```

<AUTOEXEC.BATファイル>

```
REM A:¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q /D:CD_B
```

- 2 本機を再起動します。
- 3 CUSTOMコマンドで、再度標準装備されているCD-ROMの設定を行います。
- 4 SEDITなどのエディタを使用して、AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」にドライブ名を指定します。

例 CD-ROMドライブをQドライブに設定する

A:¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q

- 5 本機を再起動すると、CD-ROMドライブの複数台接続が解除されます。

●複数台接続時のCD-ROMアプリケーション使用上のご注意

- CD-ROMアプリケーションを使用する場合、複数台のCD-ROMドライブのうち先頭以外のドライブにCD-ROMをセットすると、正常に動作しないものがあります。
この場合には、CD-ROMアプリケーションを先頭のCD-ROMドライブにセットしなおしてお使いください。
- CD-ROMアプリケーションによっては、CD-ROMドライブが複数割り当てられた状態では動作しないものがあります。
この場合には、接続しているCD-ROMドライブを1台にするなど、CD-ROMドライブが1台しか割り当てられていない状態にしてください。

■MS-DOS 6.2の強化機能

ここでは、添付のMS-DOS 6.2ユーザズマニュアルに掲載されていない強化機能について説明します。

●POWERコマンド

POWERコマンドは、MS-DOSシステムやアプリケーションソフトの動作を監視して、本機をパワーセーブ(消費電力制御)状態にします。

POWERコマンドを使用することで、MS-DOSシステムレベルでのパワーセーブが可能になります。



本体の[省電力の設定]メニューに[CPU自動停止]の設定がある場合は[設定しない]にしてご使用ください。[省電力の設定]については『ガイドブック』をご覧ください。

・POWERコマンドの組み込み

POWERコマンドを使用するには、CONFIG.SYSファイルに次の一行を追加して本機を再起動します。

DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE

POWERコマンドは、UMBメモリに十分な空き容量が存在する場合、組み込み時に自動的にUMBメモリを利用します。

また、POWERコマンドには次のようなスイッチがあります。

DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE [ADV [: MAX|REG|MIN]|STD|OFF] [/LOW]

ADV[: MAX|REG|MIN]

アプリケーションソフトやハードウェアのアイドル(何もしていない時間)を検出して、本機をパワーセーブ動作状態にします。MIN、REG、MAXの順にパワーセーブされる度合いが高くなりますが、本機の動作速度が遅くなる可能性も大きくなります。動作速度に問題が発生する場合は、MINを指定してください。これらの指定を省略した場合は、REG指定の状態で作動します。

STD POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を有効にします。

OFF POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を無効にします。

/LOW UMBメモリに十分な空き容量がある場合でも、UMBメモリを使用しません。



POWERコマンドは、ADDRVコマンドでは組み込まないでください。

• POWERコマンドの動作の変更

POWERコマンド組み込み後に動作の設定を変更する場合は、コマンドラインから次のように指定します。スイッチの内容は組み込み時と同様です。

POWER [ADV [: MAX|REG|MIN] STD|OFF]



POWERコマンドを組み込んでいない場合、コマンドラインからの設定変更はできません。

● MAXLINK-LITE

ここでは、MS-DOS 6.2に添付されているマニュアルに記述されている「MAXLINK LITE」の補足事項を説明します。

MAXLINK-LITEは最大115.2Kbpsでの高速通信に対応しています。

• MAXLINK.DRVのスイッチ

MAXLINK.DRVのスイッチは次のとおりです。

DEVICE=A:¥DOS¥MAXLINK.DRV [/1|/2|/3] [/W] [/E]

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)。
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /W 相手機のMAXLINKコマンドが実行されるまで待機します。
- /E 相手機のドライブをすべて交換可能なドライブとして処理します。

• MAXLINK.EXEのスイッチ

MAXLINK.EXEのスイッチは次のとおりです。

MAXLINK [/1|/2|/3] [/S0|/S5|/S3|/S1|/S9|/S4]

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)。
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /S0 転送速度を115200bpsに設定します。
- /S5 転送速度を57600bpsに設定します。

- /S3 転送速度を38400bpsに設定します。
- /S1 転送速度を19200bpsに設定します。
- /S9 転送速度を9600bpsに設定します(デフォルトの値)。
- /S4 転送速度を4800bpsに設定します。

●高分解能クロックデバイス

HRTIMER.SYSは、MS-DOSで1/100秒単位での時刻の取得／設定を行う場合に使用する高分解能クロックデバイスです。

・HRTIMER.SYSの組み込み

高分解能クロックデバイスを使用するにはCONFIG.SYSファイルに次のような一行を追加して本機を再起動します。

DEVICE=A:¥DOS¥HRTIMER.SYS



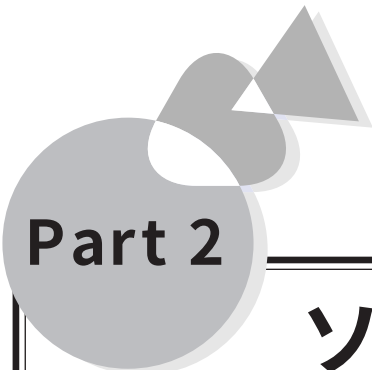
- ・ HRTIMER.SYSは、ADDRDRVコマンドを使用して組み込まないでください。
-

また、オンラインヘルプの注意事項も必ずお読みください。

■固定ディスク起動メニュープログラムについて

本機の固定ディスク起動メニューで自動起動の設定／解除を行うには、キーボードの **f・1** キーを使用します。

固定ディスク起動メニュープログラムについて、詳しくは付録の「固定ディスク起動メニューの利用」または、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。



Part 2

ソフトウェアの利用

本機で別売りのOSを利用するために必要な知識や注意事項について説明します。

- Windows 3.1を利用する
- Windows 95 を利用する
- Windows NTを利用する
- OS/2を利用する
- NetWareを利用する
- その他のソフトウェアを利用する

Windows 3.1を利用する

本機でWindows 3.1を利用する場合やアップグレードの手順について説明します。
また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

Windows 3.1の利用

本機でMicrosoft Windows 3.1(以降、Windows 3.1)を利用するには、次の手順で、アップグレードや表示解像度、サウンド機能の設定を行ってください。また、本機で利用できるWindows 3.1の強化機能についても説明しています。

■Windows 3.1のアップグレード

本機で別売のWindows 3.1を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

- 1** Windows 3.1をハードディスクドライブにインストールします。
Windows 3.1のインストール方法は、Windows 3.1の添付マニュアルの『お使いになる前に』をご覧ください。
- 2** インストール途中でセットアップ方法を選択する画面が表示されます。ここで[カスタムセットアップ]を選択します。



セットアップの際に、[入門セットアップ]や[標準セットアップ]を選択すると、自動的に解像度が選択されますので、これらのセットアップ方法は選択しないでください。

- 3** システムのハードウェア、ソフトウェア構成を選択する画面が表示されたら、ディスプレイの項目で[640×400 16色 12ドット]または、[640×400 16色 16ドット]を選択します。



- ・ [スワップファイルの設定]ダイアログボックスで[BIOを經由しないでスワップファイルを利用]に×印がついている(選択されている)場合、マウスでこのチェックボックスをクリックするなどして、×印を消してください。
また、Windows 3.1をインストール、アップグレードした後も、このチェックボックスは選択しないでください。
選択した状態でWindows 3.1をインストールする、またはWindows 3.1を使用すると、正常に動作しない場合があります。
- ・ [アプリケーションの登録]ダイアログボックスの[検索するパスカドライブ]で、Windows NTのインストールされている領域を選択しないでください。

4 Windows 3.1のインストールが終了したら、一度電源をOFFにします。

5 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
Windows 3.1が起動した場合には、終了して、MS-DOS画面にしてください。

6 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを「WIN31」ディレクトリに変更します。

CD ¥WIN31

7 コマンドプロンプトから次のように入力して、Windows3.1をアップグレードします。
<ドライブ名>、<ディレクトリ名>にはWindows3.1をインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

UPWIN <ドライブ名>:¥<ディレクトリ名>

8 アップグレードを終了後、本機を再起動してください。

9 Windows3.1が起動後、「WIN.INI」ファイルを修正します。[プログラムマネージャ]の[アイコン]―[ファイル名を指定して実行]を選択し、以下のように入力します。

notepad <ドライブ名> : ¥windows¥win.ini

<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

10 [メモ帳]が開きます。「WIN.INI」ファイルを以下のように修正します。

[windows]

・

・

load = <AP名の並び> wspowoff.exe

・

・

↑このファイル名を追加します。

<AP名の並び>は元々記述されていた実行ファイル名の並びを示しています。

11 [ファイル]－[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了します。

12 「SYSTEM.INI」ファイルを修正します。[プログラマネージャ]の[アイコン]－[ファイル名を指定して実行]を選択し、以下のように入力します。

notepad <ドライブ名> :¥windows¥system.ini

<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

13 [メモ帳]が開きます。「SYSTEM.INI」ファイルに以下の行を追加します。

[386Enh]

・
・

device=vpowwach.386 ← この行を追加

14 [ファイル]－[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了します。

15 Windows 3.1を再起動します。

■表示解像度の設定

本機はウィンドウアクセラレータを内蔵しています。内蔵のウィンドウアクセラレータに対応したディスプレイドライバを使用することで、高解像度、多色表示を利用できます。

●解像度の種類

本機内蔵のウィンドウアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	26万色中256色
640×480	6万5千色
640×480	1677万色
800×600	26万色中256色
800×600	6万5千色
800×600	1677万色
1024×768	26万色中256色
1024×768	6万5千色
1280×1024	26万色中256色

●ディスプレイドライバの組み込み

MS-DOSのコマンドプロンプトから、WindowsディレクトリのSETUPコマンドを起動して、ディスプレイドライバを組み込みます。

ディスプレイドライバを組み込む方法の詳細は、『Microsoft Windows 3.1 機能ガイド』の「第14章 セットアップによるWindowsの利用環境の変更」をご覧ください。

●マイクロソフト社製Microsoft Windows 3.1で内蔵ウィンドウアクセラレータを使用する場合の注意

マイクロソフト社製Windows 3.1のSETUPコマンド実行時のディスプレイの項目で、内蔵アクセラレータボード対応のドライバを選択した場合、フロッピーディスクを差し替える旨のメッセージが表示されます。このとき、指定のフロッピーディスクをセットしてもセットアップを継続できない場合は、次のフロッピーディスクと差し替えてください。

画面のメッセージ	セットするフロッピーディスク (マイクロソフト社製の場合)
Microsoft Windows 3.1 DISK #1	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #3	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #8	Windowsディスク #4
Microsoft Windows 3.1 DISK #11	Windowsディスク #9

■サウンド機能の設定

ここでは、Windows 3.1でのサウンド機能の利用方法について説明します。

●サウンドドライバの組み込み

次の手順でサウンドドライバを組み込んでください。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- ・ NECサウンドボード(PC-9801-26K)MIDI
- ・ NECサウンドボード(PC-9801-73)Wave & MIDI
- ・ NECサウンドボード(PC-9801-86)Wave & MIDI

削除の手順は以下のとおりです。

- ① [コントロールパネル] の [ドライバ] をダブルクリックします。
- ② 表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[削除] ボタンをクリックし削除します (Windowsの再起動は行わないでください)。
- ③ [アクセサリ] グループの [メモ帳] を起動して [SYSTEM.INI] ファイルの次の行を削除します。
device=vsbd.386
- ④ Windowsを終了します。

1 Windows 3.1を起動します。

- 2 [メイン]グループの[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックして、さらに[ドライバ]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ドライバの設定]ダイアログボックスの[追加]ボタンをクリックします。
- 4 [一覧にない、または更新されたドライバ]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 5 [ドライバの組み込み]ダイアログボックスが表示されたら、次のように指定します。

 <ドライブ名> : ¥WIN31

 <ドライブ名>は、MS-DOSがインストールされているハードディスクのドライブ名を指定します。
- 6 [OK]ボタンをクリックします。
- 7 「NEC PCM Sound Driver」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 8 [現在のものを使う]をクリックします。
- 9 組み込みが終了したら、[システム設定の変更]ダイアログボックスで[再起動する]をクリックしてください。
- 10 Windows 3.1を再起動すると、サウンド機能が使えるようになります。

●音量の調節

サウンドの音量調節を行うツールとして、[ボリュームコントロール] (VOLUME.EXE) があります。次の手順で音量調節を行ってください。

- 1 [メイン]グループから[ファイルマネージャ]アイコンをダブルクリックして、ファイルマネージャを起動します。
- 2 WindowsディレクトリのVOLUME.EXEをダブルクリックして、ボリュームコントロールユーティリティを起動します。
- 3 音量を調整します。
ボリュームコントロールユーティリティの使用方法是、[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。



ボリュームコントロールユーティリティでは、サウンドボードの音量調節はできません。詳しくは[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。

■Windows 3.1の強化機能

Windows 3.1をアップグレードしたことにより、本機で利用できる強化機能は次のとおりです。

●19200bpsの通信速度の利用

Windows 3.1上では19200bpsまでの通信速度が利用可能です。
利用する際の注意事項は、以下のとおりです。

- ・ RS-232Cでの通信は、CPUなどの通信先のハードウェア性能や利用するアプリケーションソフト、またはマルチタスクで使用しているかなどの条件によって大きく影響されます。このため、19200bpsで安定した通信ができない場合があります。
- ・ Windowsの[アクセサリ]グループにある[イメージスキャナ]で指定できるデータ転送速度は9600bpsまでです。19200bpsでのデータ転送はできません。
- ・ 2nd CCUをお使いになる場合、シリアルポートはCOM4に接続してください。
- ・ COM4のシリアルポートを接続した場合は、75bps、150bpsの通信速度は使用できません。



MS-DOSのSPEEDコマンドとSWITCHコマンドでも、従来の通信速度に加えて19200bpsを指定することができます。指定方法は、他の通信速度と同じです。ので、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。

Windows 3.1で19200bpsの通信速度を利用する場合には、次の設定を行います。

・シリアルポート(コントロールパネル)

シリアルポートの通信条件を設定する場合に使用します。

- 1 [メイン]グループの[コントロールパネル]をダブルクリックし、さらに[シリアルポート]をダブルクリックします。
[シリアルポートの設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 設定を変更するポートを選択して[設定]ボタンをクリックし、設定を行います。
- 3 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[終了]ボタンをクリックします。

・カードファイル

カードファイルに記入した電話番号に電話をかける場合に使用します。

- 1 [アクセサリ]グループの[カードファイル]をダブルクリックし、[カード]メニューを選択します。

- 2** [自動ダイヤル] コマンドを選択します。
[自動ダイヤル] ダイアログボックスが表示されます。
- 3** [詳細設定] ボタンをクリックして、設定を行います。
- 4** 設定したら、[OK] ボタンをクリックして、[ファイル] メニューから[カードファイルの終了]を選択します。

・ターミナル

他のコンピュータと接続して情報交換(パソコン通信など)を行う場合に使用します。

- 1** [アクセサリ] グループの[ターミナル]をダブルクリックし、[設定] メニューを選択します。
- 2** [通信条件] コマンドを選択します。
- 3** [通信条件の設定] ダイアログボックスで設定を行います。
- 4** 設定したら[OK] ボタンをクリックして、[ファイル] メニューから[ターミナルの終了]を選択します。

■Windows 3.1の注意事項

●スワップファイルを利用する場合のご注意

Windowsをエンハンスドモードで実行する場合、情報を一時的にメモリからハードディスクに移し、メモリの空き容量を確保します。その際、情報をスワップファイルに格納します。スワップファイルの設定は、コントロールパネルの[エンハンスドモード]アイコンで行います。[スワップファイルの設定]ダイアログボックスの「最大のサイズ」、「望ましいサイズ」に表示される容量はハードディスクの空き容量だけで決定されるわけではありません。「最大のサイズ」はハードディスクの空き容量に依存しますが、「望ましいサイズ」はコンピュータに実装されているメモリが少ない場合や、Windowsを起動する前に大量のメモリを消費している場合、ハードディスクの空き容量に関係なく、「望ましいサイズ」の容量は増加しません。「新しいサイズ」には、指定したドライブの空き容量分を確保することができますが、メモリ容量が少ない場合には「望ましいサイズ」以上の値を指定しても、実際には「望ましいサイズ」に表示された容量分のみをスワップファイルとして使用します。

Windows 95を利用する

本機で、Windows 95を利用する場合のアップグレードの手順について説明します。
また、アップグレードしたことにより利用できる機能についても説明します。

Windows 95の利用

本機でMicrosoft® Windows® 95(以降、Windows 95)を利用する場合に必要な作業および情報について説明します。

なお、Windows 95のインストールには、別売の「Microsoft® Windows® 95 Operating System」パッケージが必要です。



アップグレードしたWindows 95では、次の機能は使用できません。

- Wake Up On Ring / Time
- 1パーティションが2GBを超えるハードディスク
- FIR
- I/Oロック機能



セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- 1.2Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:5枚

フロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

- ディスプレイドライバディスク
- キーボードドライバディスク
- PCMCIAドライバディスク
- ネットワークドライバディスク
- その他のドライバディスク

■ドライバディスクを作成する

ここでは、ドライバディスクの作成を行います。

ドライバディスクの作成は、システムが購入時の状態か、はじめての電源ONの時に作成した「保存用フロッピーディスク」からシステムを再セットアップした状態で行ってください。

以降の手順では、MS-DOSがインストールされている内蔵ハードディスクのドライブをA、フロッピーディスクのドライブをCとして説明します。お使いのシステム構成と異なる場合は、読み替えてください。

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。

MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。

2 コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
CD \WIN95
```

3 カレントディレクトリが\WIN95であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
CD95UP C
```

4 画面の表示にしたがって、あらかじめ用意したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに順番にセットします。 作成したフロッピーディスクは、Windows 95をセットアップする際必要になりますので、大切に保管してください。

■Windows 95をセットアップする

Windows 95をセットアップします。セットアップ方法についてはWindows 95に添付のマニュアルをご覧ください。



MS-DOSのPOWER.EXEやPRINT.SYSのドライバが組み込まれていると、Windows 95がセットアップできません。内蔵ハードディスクのCONFIG.SYSファイルに次のような記述がある場合は、設定行の先頭に「REM」を追記して、設定を無効にしてください。

例<変更前>

```
DEVICEHIGH=A:\DOS\PRINT.SYS /U  
DEVICE=A:\DOS\POWER.EXE
```

<変更後>

```
REM DEVICEHIGH=A:\DOS\PRINT.SYS /U  
REM DEVICE=A:\DOS\POWER.EXE
```

Windows 95のセットアップ終了後、以下の設定を行ってください。設定は必ず、記述の順番にしたがって行ってください。

なお、以下では次のようなシステム構成を例に説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

Windows 95をインストールしたディレクトリ A:\WINDOWS
フロッピーディスク C:



[Windows 95へようこそ]の画面が一番前に表示されている場合は、[閉じる]ボタンをクリックしてください。

■ディスプレイの設定

以下の手順でディスプレイドライバの設定を行ってください。

- 1 [スタート]メニューから[設定] - [コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [コントロールパネル]から[画面]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックします。
- 4 [ディスプレイの詳細]タブで[ディスプレイの変更]ボタンをクリックします。
- 5 [ディスプレイの変更]ダイアログボックスで[アダプタの種類]の[変更]ボタンをクリックします。
- 6 [デバイスの選択]ダイアログボックスで[ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 7 [フロッピーディスクからのインストール]ダイアログボックスが表示されるので、フロッピーディスクドライブに「ディスプレイドライバディスク」をセットします。[配布ファイルのコピー元]に次のように入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
C:\
- 8 [デバイスの選択]ダイアログボックスで「PC-9821 TGUI9682XGi (Trident)」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 9 ファイルのコピー終了後、[ディスプレイの変更]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。
- 10 [ディスプレイの詳細]タブの[閉じる]ボタンをクリックします。
- 11 [システム設定の変更]ダイアログボックスで再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、[はい]ボタンをクリックします。

Windows 95が再起動します。
引き続き、次の設定を行ってください。

■環境ファイルの設定

1 [スタート]メニューから[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択して、MS-DOSモードを起動します。

2 フロッピーディスクドライブに「その他のドライバディスク」をセットします。

3 コマンドプロンプトから次のように入力します。

C: 

REST95 A:\WINDOWS 

4 CONFIG.SYSファイルの内容を変更しますので、コマンドプロンプトから次のように入力します。

A: 

EDIT A:\CONFIG.SYS 

5 CONFIG.SYSに次の記述を追加します。
「HIMEM.SYS」および「EMM386.EXE」の組み込みが記述されている行より、後ろに追加してください。

DEVICE=A:\WINDOWS\HIMEM.SYS

DEVICE=A:\WINDOWS\EMM386.EXE ...

:

:

DEVICEHIGH=A:\WINDOWS\COMMAND\HRTIMER.SYS←この行を追加

6  +  キーを押して[ファイル]メニューの[上書き保存]を選択します。

7  +  キーを押して[ファイル]メニューの[終了]を選択します。

8 「SYSTEM.INI」ファイルの内容を変更しますので、コマンドプロンプトから次のように入力し、「SYSTEM.INI」ファイルのバックアップをとります。

COPY A:\WINDOWS\SYSTEM.INI A:\WINDOWS\SYSTEM.NEC

「上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は「Y」と入力して上書きしてください。



SYSTEM.INIファイルはWindows動作時の環境設定を記述した大切なファイルです。手順9でこのファイルを変更しますので、必ずバックアップをとってください。



SYSTEM.INIファイルの変更に失敗した場合や、SYSTEM.INIファイルを元に戻したい場合は、次の手順で復元してください。以下の説明はWindows 95がAドライブのWINDOWSディレクトリにインストールされている場合の例です。
[スタート]メニューから[プログラム] - [MS-DOSプロンプト]をクリックします。

COPY A:\WINDOWS\SYSTEM.NEC A:\WINDOWS\SYSTEM.INI

「上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は「Y 」と入力して上書きしてください。

また、SYSTEM.INIファイルの変更に失敗し、Windows 95のシステムが起動しなくなった場合は、下記の①～③の手順でコマンドプロンプトを表示させてください。

- ① Windows 95を起動します。
- ② 「Windows 95を起動しています...」というメッセージが表示されたら、
 キーを押します。
- ③ 「Microsoft Windows 95起動メニュー」が表示されたら、「コマンドプロンプトのみ」を選択し キーを押します。

- 9** コマンドプロンプトから次のように入力し、SYSTEM.INIファイルの内容を変更します。

EDIT A:\WINDOWS\SYSTEM.INI

[386Enh]セクションに次の記述を追記してください。

device=vpowdwnd.vxd

- 10** + キーを押して[ファイル]メニューの[上書き保存]を選択します。
- 11** + キーを押して[ファイル]メニューの[終了]を選択します。
- 12** フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされている場合は取り出してください。
- 13** コマンドプロンプトから次のように入力してWindowsを再起動します。

EXIT

再起動には時間がかかります。



[Windows 95へようこそ]の画面が一番前に表示されている場合は、[閉じる]ボタンをクリックしてください。

■モニターの設定

以下の手順でモニターの設定を行ってください。

- 1 [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [コントロールパネル]から[画面]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックします。
- 4 [ディスプレイの詳細]タブで[詳細ボタン]をクリックします。
- 5 [モニター]タブをクリックします。
- 6 [モニター]タブで[変更]ボタンをクリックします。
- 7 [デバイスの選択]ダイアログボックスで本機に接続しているモニターを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 8 [ディスプレイの詳細]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。
- 9 [画面]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。

引き続き、次の設定を行ってください。

■プラグアンドプレイの設定

以下の手順でプラグアンドプレイの設定を行ってください。

- 1 [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [コントロールパネル]から[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 4 [その他のデバイス]をダブルクリックし[PCI Bridge]を表示します。
- 5 [PCI Bridge]を選択し、[削除]ボタンをクリックしてください。
- 6 [デバイス削除の確認]が表示されますので、[PCI Bridge]が削除されようとしていることを確認し、[OK]ボタンをクリックしてください。
- 7 [デバイスマネージャ]画面に戻ったら、[更新]ボタンをクリックしてください。

自動的にハードウェアを検出し、ドライバが組み込まれます。

- 8** ドライバの組み込みが終了し、再度[デバイスマネージャ]画面に戻ったら、[閉じる] ボタンをクリックしてください。

引き続き、次の設定を行ってください。

■本体内蔵LANインターフェイスの設定

以下の手順で本体内蔵LANインターフェイスの設定を行ってください。

Windows 95のセットアップ時や起動時に、本体内蔵100BASE-TXインターフェイスボード(PC-9821X-B06)を自動検出し、既に設定済みの場合は、以下の手順は必要ありません。次の「NEC 98標準キーボード(95)の設定」を行ってください。

- 1** [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2** [コントロールパネル]から[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3** [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 4** [その他のデバイス]をダブルクリックし[PCI Ethernet Controller]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
- 5** [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの変更]ボタンをクリックしてください。
- 6** [ハードウェアの種類を選択]ダイアログボックスで、[ネットワークアダプタ]を選択して[OK]ボタンをクリックします。
[デバイスの選択]ダイアログボックスで、[ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 7** [フロッピーディスクからのインストール]ダイアログボックスが表示されるので、フロッピーディスクドライブに「ネットワークドライバディスク」をセットし、[配布ファイルのコピー元]に次のように入力して、[OK]ボタンをクリックします。

C:\

- 8** [デバイスの選択]ダイアログボックスで[NEC PC-9821X-B06互換(PCI)／Intel 82557-based PCI Ethernet]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 9** [PCI Ethernet Controllerのプロパティ]画面で[NEC PC-9821X-B06互換(PCI)／Intel 82557-based PCI Ethernet]が表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。
- 10** コンピュータ名とワークグループの入力を要求される場合があります。その場合は、画面の指示にしたがってください。
- 11** ファイルのコピー中にダイアログボックスに、Windows 95システムネットワークファイルを要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は、画面の指示にしたがってください。

- 12** [システム設定の変更]ダイアログボックスで再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、[はい] ボタンをクリックします。

Windows 95が再起動されます。

引き続き、次の設定を行ってください。

■NEC 98標準キーボード(95)の設定

以下の手順でNEC 98標準キーボード(95)の設定を行ってください。

- 1** [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2** [コントロールパネル]から[キーボード]アイコンをダブルクリックします。
- 3** [情報]タブをクリックします。
- 4** [情報]画面で[キーボードの種類]の[変更]ボタンをクリックします。
- 5** [デバイスの選択]ダイアログボックスで、[ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 6** [フロッピーディスクからインストール]ダイアログボックスが表示されるので、フロッピーディスクドライブに「キーボードドライバディスク」をセットし、[配布ファイルのコピー元]に次のように入力して、[OK]ボタンをクリックします。

C:\

- 7** [デバイスの選択]ダイアログボックスで[NEC 98標準キーボード(95)]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 8** ドライバのコピーが終了したら[情報]画面で[キーボードの種類]が[NEC 98標準キーボード(95)]に変更されていることを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。
- 9** [システム設定の変更]ダイアログボックスで再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、[はい] ボタンをクリックします。

Windows 95が再起動されます。

これまでの手順ですべての設定が完了しました。

ドライバの設定終了後、再起動を行っていない場合は、設定を有効にするためにシステムを再起動します。Windows 95の[スタート]メニューで[Windowsの終了]をクリックし、[コンピュータを再起動する]を選択して[はい]ボタンをクリックしてください。

ネットワークの利用

■本体内蔵LANインターフェイスの設定

Windows 95起動時に、100BASE-TX インターフェイスボード(PC-9821X-B06)を自動検出した場合は、以下の手順でネットワークドライバをインストールします。

以下の手順では、フロッピーディスクドライブをCDドライブとして説明しています。

- 1** Windows 95を起動すると、[新しいハードウェア]ダイアログボックスが表示されます。[ハードウェアの製造元が提供するドライバ]を選択して[OK]ボタンをクリックします。
- 2** [フロッピーディスクからのインストール]ダイアログボックスが表示されるので、フロッピーディスクドライブに「ネットワークドライバディスク」をセットし、[配布ファイルのコピー元]に次のように入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。

C:\
- 3** コンピュータ名とワークグループの入力を要求される場合があります。その場合は、画面の指示にしたがってください。
- 4** ダイアログボックスに、Windows 95システムネットワークファイルを要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は、画面の指示に従ってください。
- 5** [システム設定の変更]ダイアログボックスで再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、[はい]を選択します。

Windows 95が再起動されます。

●アドバンスドコンフィギュレーションパラメータの設定

パラメータを変更するには、次の操作を行います。



ほとんどのコンフィギュレーションでは、デフォルトの設定で正しく機能します。これらのパラメータを変更する場合には、設定内容に精通した上で行ってください。

- 1 [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [コントロールパネル]から[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 3 リストボックスの[NEC PC-9821X-B06互換(PCI)／Intel 82557-based PCI Ethernet]を選択します。
- 4 [詳細設定]タブを選択します。
設定できる項目は以下のとおりです。

Duplex Mode: 推奨設定 Auto Duplex Detect (デフォルト)

ネットワーク上でのアダプタによるパケットの送受信方法を選択するためのパフォーマンス・オプションです。

Auto Duplex Detect (自動二重モード検知)

アダプタはハブとネゴシエーションを行って、パケットの送受信を全二重モードにするか、または半二重モードにするかを決定します。

Full-Duplex (全二重モード)

アダプタはパケットの送受信を同時に行います。このモードを使用すると、アダプタの性能が向上します。使用する全二重ハブが自動ネゴシエーションを行わない場合(非NWayハブ)に、アダプタを全二重モードに設定するために指定します。

Hal-Duplex (半二重モード)

アダプタは送信と受信を同時に行いません。



Auto Duplex Detect (自動二重モード検知)を選択せずに、全二重モードまたは半二重モードを選択した場合は、SPEEDパラメータを10または100に設定しなければなりません。速度設定をAutomatic (自動検知)のままにしておかないでください。

通常のアダプタでは、パケットの送受信を同時に行うことはできません(半二重モード)。PC-9821X-B06互換アダプタでは、パケットの送受信を同時に行うことができます(全二重モード)。アダプタを全二重モードで使用するためには、全二重モードに対応したハブが必要です。

PC-9821X-B06互換アダプタにはハブと「交渉」する機能があり、通信モード(全二重モードまたは半二重モード)を自動的に決定することができます。これを自動ネゴシエーションと呼びます。アダプタを全二重モードで使用するためには、以下のように設定を行います。

- ・ **自動ネゴシエーション・ハブ(NWayハブ)を用いる場合**
Duplex Mode(二重モード)をAuto Duplex Detect(自動二重モード検知=デフォルト)に設定します。
- ・ **使用する全二重ハブが自動ネゴシエーションを行わない場合(非NWayハブ)**
Duplex Mode(二重モード)をFull-Duplex(全二重モード)に設定し、かつ、SPEEDパラメータを必ず、100Mb/secまたは10Mb/secに設定します。

Coalesce Buffers: 推奨設定 8

ドライバで使用可能なマップ・レジスタが不足したときに使用できるメモリバッファ数です。このパケット領域は、パケットが多数のフラグメントで構成されている場合にも使用されます。

Driver Name: 推奨設定 N100B\$

変更しないでください。

Map Registers: 推奨設定 64

マップレジスタは、バスマスタリングカードによって物理アドレスと仮想アドレスを変換するために使用されるシステムリソースです。Map Registersパラメータで、ドライバに割り当てるレジスタの数を指定します。

Transmit Control Blocks: 推奨設定 16

ドライバがアダプタに割り当てる伝送制御バッファの数を指定します。この値は、ドライバがその「送信」待ち行列に入れることができる未送信のパケット数に直接対応します。

Receive Frame Descriptors: 推奨設定 16

ドライバがデータをプロトコルメモリにコピーするときに使用するバッファの数を指定します。

Ethernet ID:

複数のPC-9821X-B06互換アダプタを追加するときだけに使用します。

複数のPC-9821X-B06互換アダプタをWindows 95システムにインストールした場合、各カードはイーサネットアドレスの下位8桁で識別されなければなりません。しかし、Windows 95では10進数の数字が必要であるため、16進数を10進数に変換しなければなりません。

例 イーサネット・アドレスが00AA00123456のアダプタの場合、イーサネットアドレスの値は1193046になります(00123456を10進数に変換した値は1193046です)。

Speed: 推奨設定 Automatic(デフォルト)

このパラメータで、PC-9821X-B06互換アダプタがイーサネットケーブル上で使用する速度を指定します。10Mb/sec、100Mb/sec、Automaticのいずれかを選択できます。Automatic(自動検知)では、アダプタは100Mbpsの速度が

サポートされる環境かどうかを検知します。検知した結果、100Mbpsを使用できる場合には速度を100に、使用できない場合には10に設定します。クロスケーブルを使用して他のアダプタに接続する場合は、この設定を必ず、10Mb/secまたは100Mb/secのどちらかに設定してください。

オプションボードの設定

本機のWindows 95でLANボード(SV-98/2-B05/B05L/B06/B06L)や、PCカードスロット増設アダプタ、PCカードスロット増設ボード、SCSIカードを使用する場合は、次の操作を行う必要があります。

なお、以下では、次のようなシステム構成を例に説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

Windows 95をインストールしたディレクトリ A:\WINDOWS
フロッピーディスクドライブ C:

■PCI LANボードを使用する場合

SV-98/2-B05/B06(B05L/B06L含)用LANドライバ(B80PCIA.VXD, B80PCIA.DOS)の差分モジュールのインストールは、以下の手順で行ってください。

- 1 LANボードを装着し、Windows 95をインストールします(既にWindows 95をインストールしてある状態でLANボードをインストールする場合は、LANボードを装着し、Windows 95を起動します)。
Windows 95が自動的にLANボードを認識し、必要ファイルをコピーした後、再起動します(この時点ではネットワークは正常に動作しません)。

- 2 [スタート]メニューから[プログラム]—[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

- 3 フロッピーディスクドライブに「ネットワークドライバディスク」をセットします。

- 4 コマンドラインから次のように入力し、「ネットワークドライバディスク」に格納されているB80PCIA.VXDを、Windows 95をインストールしたディレクトリの下の\SYSTEMディレクトリにコピーします。

```
COPY C:\B80PCIA.VXD A:\WINDOWS\SYSTEM /Y
```

- 5 コマンドラインから次のように入力し、「ネットワークドライバディスク」に格納されているB80PCIA.DOSを、Windows 95をインストールしたディレクトリにコピーします。

```
COPY C:\B80PCIA.DOS A:\WINDOWS /Y  
EXIT
```

- 6 フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出します。
- 7 [スタート]メニューから[Windowsの終了]をクリックし、[コンピュータを再起動する]を選択して[はい]ボタンをクリックしてください。
Windows 95が再起動します。



- ・本モジュールは、SV-98/2-B05/B05L/B06/B06Lに有効です。
- ・対象LANボードのインストールを行った都度、本モジュールと置き換える必要があります。

■PCカードスロット増設アダプタまたはPCカードスロット増設ボードを使用する場合

オプションのPCカードスロット増設アダプタまたはPCカードスロット増設ボードを使用する場合には以下の手順を行ってください。

- 1 PCカードスロット増設アダプタまたはPCカードスロット増設ボードをプラグアンドプレイモードに設定して装着し、Windows 95を起動します。
- 2 [スタート]メニューから[設定] - [コントロールパネル]をクリックします。
- 3 [コントロールパネル]から[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]タブから[PCMCIAソケット]の[NEC PCMCIA controller]または[NEC PC-9821-102]または[NEC PC-9821XA/XE-E01]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
- 5 [ドライバ]タブの[ドライバの変更]ボタンをクリックします。
- 6 [デバイスの選択]ダイアログボックスの[ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 7 フロッピーディスクドライブに「PCMCIAドライバディスク」をセットし、[配布ファイルのコピー元]に、次のディレクトリを指定します。
C:\
- 8 [デバイスの選択]画面で[NEC PCMCIA controller]または[NEC PC-9801-102]または[NEC PCカードスロット増設アダプタ]が表示・選択されていることを確認して、[OK]ボタンをクリックします。
- 9 [ドライバ]タブの[OK]ボタンをクリックします。
- 10 画面の指示に従い、ドライバをコピーします。

11 [デバイスマネージャ]タブの[閉じる]ボタンをクリックします。

オプションカードの設定

●PC-9801N-J03/J03Rを使用する場合

PC-9801N-J03/J03R用SCSIドライバ(MPS100.MPD)の差分モジュールのインストールは以下の手順で行ってください。

なお、以下の手順では、フロッピーディスクドライブをC:、Windows 95をインストールしたディレクトリをA:\WINDOWSとして説明しています。

1 SCSIカードを装着し、Windows 95をインストールします。
(すでにWindows 95をインストールしてある状態でSCSIカードをインストールする場合は、SCSIカードを装着し、Windows 95を起動します。)
Windows 95が自動的にカードを認識し、必要なプログラムをコピーした後、再起動します。

2 [スタート]メニューから[プログラム] - [MS-DOSプロンプト]をクリックします。

3 フロッピーディスクドライブに「Windows 95のセットアップ」で作成した「その他のドライバディスク」をセットします。

4 コマンドラインから次のように入力します。

COPY C: \MPS100.MPD A:\WINDOWS \ SYSTEM \ IOSUBSYS /Y 

EXIT 

5 フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出します。

6 [スタート]メニューから「Windowsの終了」をクリックし、[コンピュータを再起動する]を選択して[はい]ボタンをクリックします。

Windows 95が再起動します。



- ・本モジュールは、PC-9801N-J03/J03Rに有効です。
- ・対象SCSIカード用ドライバのインストールを行う(手順1)都度、本モジュールと置き換える(手順2～5)必要があります。

●割り込みを必要とするPCカードを使用する場合

割り込みを必要とするPCカードを使用する場合は、PCカードが使用するための割り込みをあけておく必要があります。

MS-DOSモードで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する.....

MS-DOSモードで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合には以下の手順を行ってください。

- 1** セットアップしたWindows 95を起動します。
- 2** メモ帳などのエディタを起動して¥(ルート)ディレクトリにあるCONFIG.SYSファイルを開きます。
- 3** CONFIG.SYSファイルに次の行を追加します。

```
DEVICE=A:\WINDOWS\COMMAND\NECCD.SYS /D:CD_101
```

次のようなMS-DOS用のCD-ROMドライブに関する記述がある場合は、その行を削除します。

```
DEVICE=A:\DOS\NECCD.SYS /D:CD_101
```

- 4** CONFIG.SYSファイルを上書き保存し、エディタを終了します。
- 5** メモ帳などのエディタを使用して、Windows 95をインストールしたディレクトリ(A:\WINDOWS)にあるDOSSTART.BATファイルを開きます。
DOSSTART.BATファイルに次の行がない場合は追加してください。

```
A:\WINDOWS\COMMAND\MSCDEX /D:CD_101
```

DOSSTART.BATファイルがない場合は、新規作成でファイルを作成します。
作成したDOSSTART.BATに次の行を記述します。

```
A:\WINDOWS\COMMAND\MSCDEX /D:CD_101
```

Windows 95をインストールしたディレクトリ(A:\WINDOWS)にファイル名をDOSSTART.BATと指定して保存してください。

- 6** ファイルを上書き保存し、エディタを終了します。
- 7** 認定を有効にするために、システムを再起動します。[スタート]メニューの[Windowsの終了]—[コンピュータの電源を切れる状態にする]を選択して、システムを終了した後、再度電源をONにしてWindows 95を起動してください。

注意事項

■DirectX対応のゲーム等を使用する場合のご注意

Windows 95にインストールされているサウンドドライバは最新のバージョンがインストールされています。以前のバージョンのドライバを上書きしないようにしてください。しかしアプリケーションソフトによっては、アプリケーションのインストール中にサウンドドライバが以前のバージョンへ置き換わってしまう場合があります。サウンドドライバのバージョンが「4.04.00.0055」以前のドライバに置き換わってしまった場合、後述の「●サウンドドライバの設定」の手順を実行してください。バージョンの確認方法は、下記方法で確認できます。

- 1 [スタート]メニューの[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 [コントロールパネル]から[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 4 [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]の下に表示される[MATE-X PCM]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
- 5 [ドライバ]タブをクリックし、表示されるバージョンを確認してください。

●サウンドドライバの設定

下記手順は、フロッピーディスクドライブをCDドライブ、Windows 95をインストールしたディレクトリをA:\WINDOWSとして記述してあります。使用する環境が異なる場合は、読みかえてください。

- 1 [スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択し、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択して、MS-DOSモードを起動します。
- 2 フロッピーディスクドライブに「その他のドライバディスク」をセットし、次のように入力して、カレントドライブをCDドライブに変更します。

C: 
- 3 カレントドライブが正しいことを確認し、次のように入力してアップグレードを開始します。

UPSOUND A: \WINDOWS 
- 4 画面の指示にしたがってアップグレードを行ってください。

- 5** アップグレード終了のメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して画面の指示にしたがいWindowsを再起動してください。

■ユースフルパック(Windows® 95版)をインストールする場合のご注意

ユースフルパック(Windows® 95版)をインストールする場合、「MS-DOSモード用CD-ROMドライバ」はインストールしないでください。本機種用の「MS-DOSモード用CD-ROMドライバ」が他の機種用の「MS-DOSモード用CD-ROMドライバ」に置き換えられる場合があります。

誤ってインストールしてしまった場合は、下記の手順で再度「MS-DOSモード用CD-ROMドライバ」をインストールしてください。

なお、以下の手順では、Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA:\WINDOWS、フロッピーディスクドライブをCとして説明しています。お使いのシステム構成と異なる場合は、読み替えてください。

- 1** [スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択して、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択して、MS-DOSモードを起動します。
- 2** フロッピーディスクドライブに「その他のドライバディスク」をセットします。
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力します。

`COPY C:\NECCD.SYS A:\WINDOWS\COMMAND /Y` 

- 4** フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出します。
- 5** コマンドプロンプトから次のように入力してWindows 95を再起動します。

`EXIT` 

■通信時のご注意

シリアルポートやFAXモデムボードを使用した通信時に、文字落ちなどが発生した場合は、次の方法でパワーマネジメントを使用しない設定にしてください。

- 1** [スタート]メニューから[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2** [コントロールパネル]から[パワーマネジメント]をダブルクリックします。
- 3** [電源のプロパティ]画面が表示されます。
- 4** [パワーマネジメント(P)]のリストボックスから[オフ]を選択します。
- 5** [OK]ボタンをクリックします。

Windows NTを利用する

本機で、Windows NT Workstation 3.51*、Windows NT Server 3.51**（以下、Windows NT 3.51）およびWindows NT Workstation 4.0***、Windows NT Server 4.0****（以下、Windows NT 4.0）を利用する場合、通常のセットアップ以外にいくつかのドライバをアップデートする必要があります。

ここではWindows NTが利用できるまでの手順について説明します。

- * Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51
- ** Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51
- *** Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
- **** Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0

Windows NT 3.51の利用.....

本機でWindows NT 3.51をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 3.51のセットアップ

- 「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する
- Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項
- Windows NT 3.51をセットアップする
- ドライバをアップデートする

2. 内蔵アクセラレータの利用

3. Windows NT 3.51アップデートサービス Service Pack 5の利用

4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用

5. フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用(PC-9821 Xa20/D30Rをお使いの場合のみ)



- 「1. Windows NT 3.51のセットアップ」がすべて終了してから、「2. 内蔵アクセラレータの利用」以降を行ってください。
- 本機内蔵ネットワークインターフェイスをお使いの場合は、「4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」を行う必要はありません。
- B4680 NIB-PCIネットワークアダプタを接続してWindows NTをセットアップする場合は、次の手順に変わりますので注意してセットアップを行ってください。

1. Windows NTのセットアップ

- 「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する
- Windows NTをセットアップする前の確認事項
- Windows NT 3.51をセットアップする
- B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用
- ドライバをアップデートする

2. 内蔵アクセラレータの利用

3. Windows NT 3.51 アップデート サービス Service Pack 5の利用

4. フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用(PC-9821 Xa20/D30Rをお使いの場合のみ)

- ・ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。
- ・本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他機種では使用しないでください。

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・1.44 M バイト フォーマット済みのフロッピーディスク:2枚
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

「システム修復ディスク」

「Windows NT 3.51アップデートディスク」

1.Windows NT 3.51のセットアップ

●「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する

ここでは、「Windows NT 3.51アップデートディスク」の作成を行います。

「Windows NT 3.51 アップデートディスク」の作成は、システムが購入時の状態か、はじめての電源ONの時に作成した「保存用フロッピーディスク」からシステムを再セットアップした状態で行ってください。

内蔵のハードディスクには Windows NT 3.51のドライバが保存されています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

ここでは、ハードディスクドライブをA、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。
- 2** 用意しておいた「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

3 MS-DOSプロンプトから次のように入力します。

CD ¥NT351 

4 カレントディレクトリが「NT351」であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」は付けません。

CDNTUP C 

5 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。

6 作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 3.51をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

● Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項

Windows NT 3.51セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・本機の設定について

セキュリティの設定は、すべて「使用しない」、または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ガイドブック』を参照してください。

・オプションボードについて

- ・ B4680 NIB-PCIネットワークアダプタをお使いになる場合、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のネットワークドライバを使用してください。B4680 NIB-PCIネットワークアダプタのセットアップ方法は「4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。
- ・ プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は本体添付の『ガイドブック』や、各ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108 B4680 インターフェイスボードをお使いの場合、Windows NT 3.51をセットアップする前に、ボードのハードウェア設定を行ってください。設定方法については、ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108 B4680 インターフェイスボードをお使いになる場合、ボード添付の「ドライバディスク」のドライバを使用してください。

・キーボードについて

- ・ 106 キーボード(PC-9801-116)をお使いの場合は、Windows NT 3.51標準の 106 キーボードドライバを使用してください。キーボード添付のドライバは使えません。

● Windows NT 3.51をセットアップする

高速セットアップを使って、本機にWindows NT 3.51を新規に組み込む場合について説明します。



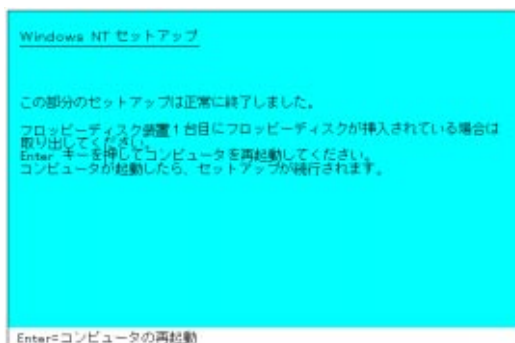
- ・ セットアップは、高速セットアップで行います。
- ・ B4680 NIB-PCI LANアダプタをお使いになる場合は、セットアップはカスタムセットアップで行わなければいけません。B4680 NIB-PCI LANアダプタのセットアップ方法については、「4.B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。
- ・ ディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード 16色」で行ってください。
お使いのWindows NT 3.51によっては、このマニュアルに記載されている画面と異なる場合があります。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

- 1 「Windows NT 3.51セットアップブートディスク」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れます。Windows NT 3.51 CD-ROM版をお持ちの場合は、「Windows NT 3.51セットアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに入れておきます。
- 2 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替えます。
- 3 「Windows NT 3.51 セットアップディスクNo.3」をセットした後で、次の画面が表示されます。ここでは、「続行」を選択してください。



- 4 セットアップ方式を選択する画面が表示されます。ここでは、「高速セットアップ」を選択してください。
- 5 認識した大容量記憶装置の一覧が表示されます。
- 6 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替えます。
- 7 Windows NT 3.51のセットアップ媒体を選択する画面が表示されます。ご購入のWindows NT 3.51がCD-ROM版かフロッピーディスク版かを確認して、選択してください。
- 8 本機に、その他のWindowsがインストールされている場合、アップグレードするかどうか確認されますが、ここではアップグレードしないでセットアップしてください。
- 9 Windows NT 3.51をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリの設定を行います。
ファイルのコピーが自動的に開始されます。
- 10 ファイルのコピー終了後、次の画面が表示されます。フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、コンピュータを再起動してください。



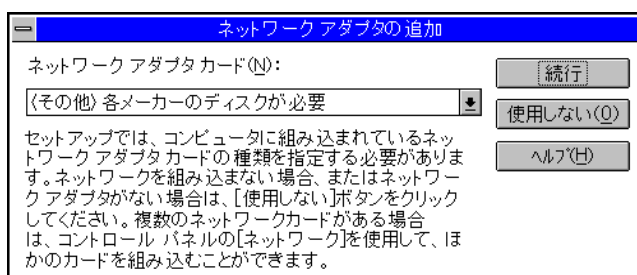
これで、Windows NT 3.51のテキストセットアップは終了しました。続いてグラフィックセットアップを行います。

- 11 グラフィックのセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って下記の項目について設定を行います。
 - ・ 氏名および会社名の登録
 - ・ プロダクト ID の登録
 - ・ セキュリティの役割(ドメイン コントローラとサーバーの役割)
 - ・ ライセンスモードの選択
 - ・ コンピュータ名の登録
 - ・ 各国対応
 - ・ ローカルプリンタのセットアップ



Windows NT Workstation 3.51では、セキュリティの役割、ライセンスモードの設定は出来ません。

- 12** ネットワークアダプタの検出を行います。
ここでは、本体内蔵LANアダプタを利用する場合について説明します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。
- 13** 「ネットワークアダプタカードが検出されませんでした」と表示されるので、[続行] ボタンをクリックします。
- 14** 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか確認されるので、[続行] ボタンをクリックします。リモートアクセスサービスの設定をする場合は、ここで[リモート] ボタンをクリックします。リモートの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照してください。
- 15** [ネットワーク アダプタ カード] リストボックスから[<その他>各メーカーのディスクが必要]を選択し[続行] ボタンをクリックします。



- 16** ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
フロッピーディスクを入れたドライブのINTELディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックします。

C:\INTEL

- 17** OEMの一覧から「PC-9821X-B06互換/Intel EtherExpress PRO/100B Adapter」を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

セットアッププログラムがファイルのコピーを行います。

- 18** ファイルコピーが終了すると「Adapter Properties(557set)」ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



ドライバのパラメータを手動で設定する場合は、Windows NT 3.51セットアップ後に行います。パラメータを手動設定、パラメータの詳しい設定については、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のINTELディレクトリにあるREADME.TXTを参照してください。

- 19** ネットワークの設定を行います。
画面の指示にしたがってネットワークの設定を行ってください。
ネットワークの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

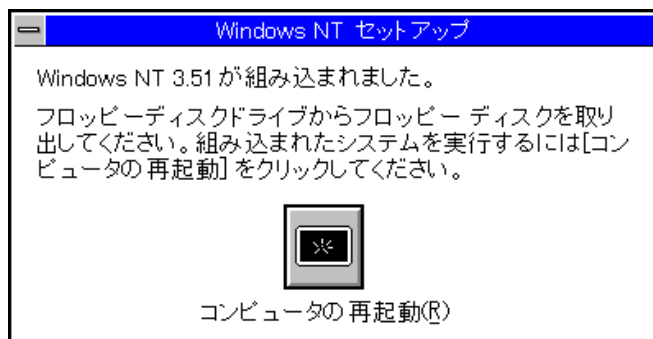
ネットワークに関する Windows NT 3.51のファイルをコピーします。

- 20** アカウント/日付時刻の設定/ディスプレイの設定を行います。
画面の指示に従って下記の項目について設定します。

- ・ドメイン/ワークグループの設定
- ・管理者アカウントの設定
- ・ローカルアカウントの設定
- ・日付、時刻および時間帯の設定
- ・ディスプレイの設定(確認のみ)

- 21** 構成情報の保存後、「システム修復ディスク」の作成を行います。用意しておいたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[はい]ボタンをクリックします。

- 22** 「システム修復ディスク」の作成が終了すると、Windows NT 3.51セットアップは終了です。フロッピーディスクドライブから、「システム修復ディスク」を取り出して[コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてください。



Windows NT 3.51本体のセットアップは終了しました。ファイルシステムとして NTFS を選択した場合は最初のシステム起動でファイルシステムの変換を行い、その後自動起動します。

Windows NT 3.51のセットアップ終了後、「ドライバをアップデートする」に進んでください。



Windows NT 3.51セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、**[TAB]** キーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。

●ドライバをアップデートする

Windows NT 3.51のドライバをアップデートします。「Windows NT 3.51アップデートディスク」には、本機の機能を有効にお使いいただくため、Windows NT 3.51のドライバが添付されています。ここでは、アップデートの手順について説明します。



ドライバをアップデートする前に、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」を参照してください。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピー ディスクドライブにセットします。
- 2 [メイン]グループの[コマンドプロンプト]をダブルクリックします。

C:

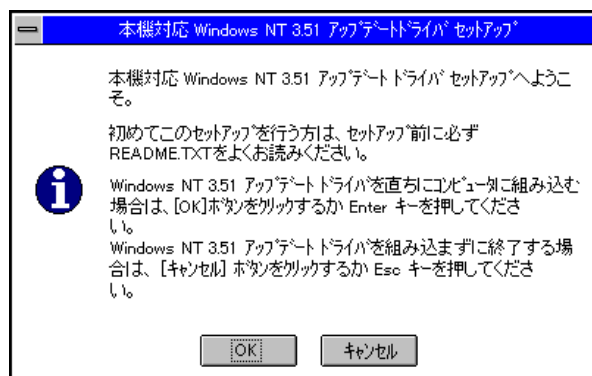
CD \

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力します。

カレントディレクトリがCDドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE

- 4** 次のようなセットアップの画面が表示されます。ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で[OK] ボタンをクリックしてください。



ファイルのコピーが開始されます。

- 5** ドライバのコピー終了後、次の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を取り出し、システムを再起動してください。



以上で Windows NT 3.51 のセットアップは終了しました。「2. 内蔵アクセラレータの利用」に進んでください。

2. 内蔵アクセラレータの利用

ここでは、本機内蔵アクセラレータの設定について説明します。

本機では、「Windows NT 3.51アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1 [メイン]グループにある[コントロール パネル]の[ディスプレイ]を起動します。
- 2 [ディスプレイの変更]ボタンを選択します。
- 3 [変更]ボタンを選択します。
- 4 [その他]ボタンを選択します。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 5 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥TRIDENT

- 6 [モデル]リストボックスから、「内蔵アクセラレータ(Trident Microsystems社製 TGUI 9682)」を選択します。
- 7 [組み込む]ボタンを選択します。
- 8 [はい]ボタンを選択します。
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、[新しいドライバ]ボタンを選択します。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

- 9** ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示するメッセージが表示されたら、ドライブ名とディレクトリ名を確認します。
「C:¥TRIDENT」を指定して[続行]ボタンをクリックします。
- 10** ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
- 11** ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
- 12** 「新しい設定を有効にするにはWindows NTを終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、[再起動する]ボタンを選択します。

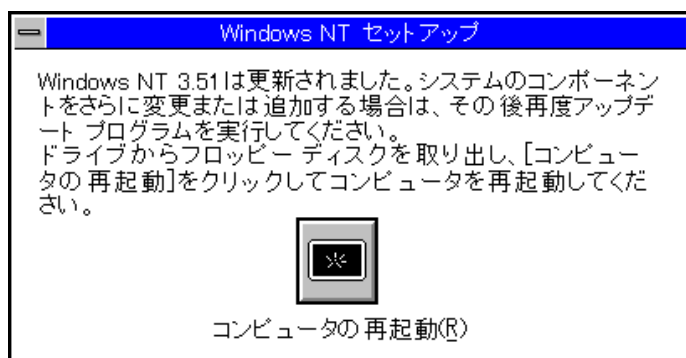
3. Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 5の利用

本機でMicrosoft® Windows NT® 3.51でアップデート サービス「Service Pack 5」(以下 Service Pack 5)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。



- Service Pack 5インストール後は再度起動せずに、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- Service Pack 5をインストールする前に、Service Pack 5の「README.TXT」をご覧ください。

- 1** Service Pack 5をインストールします。
- 2** Service Pack 5ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



ここでは再起動を行わず、タスク スイッチ(**GRPH** + **TAB**を何度か押す)でプログラム マネージャに戻り、必ず次の操作を行ってください。

- 3 ドライバの再アップデートを行います。まず、[メイン]グループの[コマンドプロンプト]を起動します。
- 4 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 5 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

C: 
CD ¥ 

カレントディレクトリが、CDドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE 

- 6 コピー終了後、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出して、コマンドプロンプトを終了します。
- 7 タスクスイッチ( +  を何度か押す)でService Pack 5のインストール(Windows NT Setup)に戻り、[コンピュータの再起動] ボタンをクリックしてシステムを再起動してください。



Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 5」についての詳しい内容は、「はじめに」の「■ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。



NEC製以外のWindows NT 3.51並びに Service Pack をご利用の方は、各OSメーカーにお問い合わせください。

4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用

ここでは、カスタムセットアップでのB4680 NIB-PCIネットワークドライバの追加の手順について説明します。追加手順以外のセットアップについての説明は、「Windows NTセットアップガイド」またはオンラインヘルプを参照してください。また、B4680 NIB-PCIネットワークアダプタを利用する場合、ドライバはWindows NT標準ネットワークドライバではなく、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のドライバを使用する必要があります。

設定は次の手順で行います。

1 Windows NTのテキストセットアップを行います。

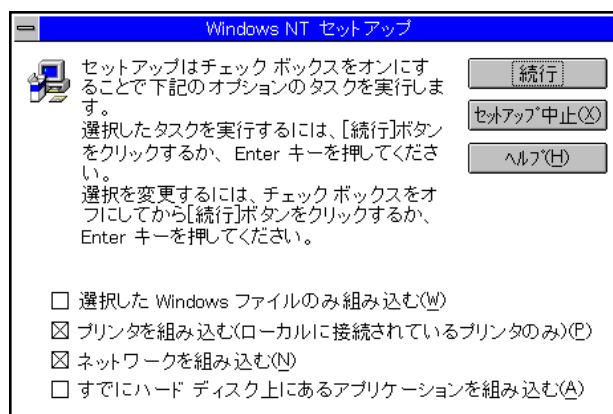


テキストセットアップ時には次のことに注意してください。

- 必ずカスタムセットアップ指定を行ってください。
- ディスプレイの設定は「解像度640×400ノーマルモード 16色」で行ってください。
- セットアップ時の追加デバイスの指定で、「IDE CD-ROM(ATAPI)デバイス」は必ず設定してください。

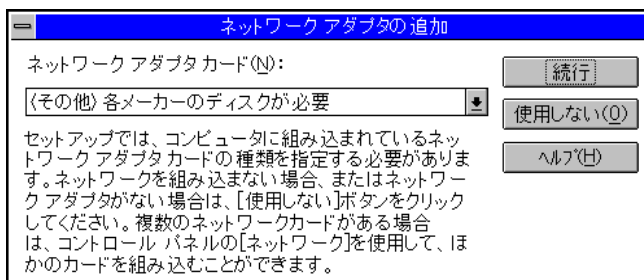
2 テキストのセットアップの終了後、グラフィックのセットアップを行います。

本機でB4680 NIB-PCIアダプタを利用する場合、グラフィックセットアップの次の画面で、[ネットワークを組み込む]オプションをチェックしてセットアップしてください。



ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

- 3 ネットワークアダプタカードを自動的に検出するかどうかを聞いてくるので、[検出しない]ボタンをクリックします。
- 4 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか聞いてくるので、[続行]ボタンをクリックします。
- 5 [ネットワークアダプタカード]リストボックスから[<その他>各メーカーのディスクが必要]を選択し、[続行]ボタンをクリックします。



- 6 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブ名とディレクトリ名B80PCIAを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥B80PCIA

- 7 [B4680 NIB-PCIアダプタ]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

これでB4680 NIB-PCIアダプタドライバの追加のセットアップは終了しました。

Windows NTのファイルコピーが開始されます。グラフィックセットアップを続行してください。

セットアップが終了したら、「1.Windows NT 3.51のセットアップ」の「●ドライバをアップデートする」に進んでください。

5.フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用

PC-9821 Xa20/D30R に関する内容です。

本機で「フルカラーウィンドウアクセラレータボードX」を利用する場合、「Windows NT 3.51アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使う必要があります。ここでは、「フルカラーウィンドウアクセラレータボードX」のドライバのインストール手順について説明します。

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをC、CD-ROMドライブをDとして説明します。
実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** [メイン]グループにある[コントロールパネル]の[ディスプレイ]を起動します。
- 2** [ディスプレイの変更]ボタンをクリックします。
- 3** [変更]ボタンをクリックします。
- 4** [モデル]のリストボックスから、「フルカラーウィンドウアクセラレータX」を選択して、
[組み込む]ボタンをクリックします。
ドライバの入ったCD-ROMをセットするように指示されます。
- 5** [はい]ボタンをクリックします。
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、[新しいドライバ]ボタンを選択します。
ドライバの入った CD-ROM をセットするように指示されます。
- 6** Windows NT 3.51のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 7** CD-ROMをセットしたドライブの\PC98ディレクトリを指定して[続行]ボタンをクリックします。

D:\PC98
- 8** ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
- 9** ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
- 10** 「新しい設定を有効にするにはWindows NT を終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されますが、ここでは[再起動しない]ボタンをクリックします。
- 11** [メイン]グループにあるコマンド プロンプトを起動します。
- 12** 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 13** コマンドプロンプトより、次のように入力します。

C: 

CD \ 

カレントが、C:\ であることを確認して、次のように入力します。

MGAUP 

14 画面にしたがってドライバをアップデートします。

15 アップデートが終了したら、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を取り出し、システムを再起動してください。

Windows NT 4.0の利用.....

本機でWindows NT 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 4.0のセットアップ

- 「Windows NT Setup Disk 1」の複製を作成する
- Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する
- Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項
- Windows NT 4.0をセットアップする
- ドライバをアップデートする

2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート

3. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3の利用



- 「1.Windows NT 4.0のセットアップ」がすべて終了してから、「2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート」以降を行ってください。
- 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他の機種では使用しないでください。
- ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- 1.44 Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:3枚
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

「Windows NT Setup Disk 1<置換版>」

「Windows NT 4.0アップデートディスク」

「システム修復ディスク」(注意:セットアップ後に手動で作成してください。)

1. Windows NT 4.0のセットアップ

●「Windows NT Setup Disk1」の複製を作成する

「Windows NT Setup Disk1」に対して、アップグレードを行います。アップグレードにより、フロッピーディスクの内容を書き換えますので、必ず複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルの「Windows NT Setup Disk1」は大切に保存しておいてください。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。
- 2** DISKCOPYコマンドを使って「Windows NT Setup Disk1」の複製を作成します。
複製はあらかじめ用意した「Windows NT Setup Disk1<置換版>」に作成します。
DISKCOPYコマンドの使用方法是コマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /?

●Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する

ここでは、「Windows NT Setup Disk 1<置換版>」のアップグレードと「Windows NT 4.0アップデートディスク」の作成を行います。

Windows NT 4.0 セットアップディスクの作成は、システムが購入時の状態か、はじめての電源ONの時に作成した「保存用フロッピーディスク」からシステムを再セットアップした状態で行ってください。

内蔵のハードディスクには Windows NT 4.0のドライバが保存されています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。
ここでは、内蔵ハードディスクドライブをA、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** 「Windows NT Setup Disk 1<置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 2** MS-DOSプロンプトから次のように入力します。

CD ¥NT40 

- 3** カレントディレクトリが「NT40」であることを確認し、MS-DOSプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」は付けません。

CDNTUP C 

- 4** 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。
途中で「Windows NT 4.0アップデートディスク」と入れ換えるよう指示があります。

作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 4.0をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

●Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項

Windows NT 4.0セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・本機の設定について

セキュリティの設定はすべて「使用しない」、または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ガイドブック』を参照してください。

・オプションボードについて

プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は、各ボード添付のマニュアルを参照してください。

●Windows NT 4.0をセットアップする

本機にWindows NT 4.0を新規に組み込む場合について説明します。



セットアップを行う前に「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」、「NECREAD.TXT」をご覧ください。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

- 1** 「Windows NT Setup Disk1<置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れます。
「Windows NT CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。

- 2** 画面の指示にしたがってテキストセットアップを行います。

3 大容量記憶装置検出の画面で、[S=検出のスキップ]を選択します。



ここで、[Enter=続行]を選択しないでください。自動検出を行うと以下で行うドライバの組み込みができなくなります。

- 4 「セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました:<なし>」と表示されますので、[S=追加デバイスの指定]を選択します。
- 5 「Windows NTで使用する、追加のSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラを指定します」と表示されますので、リスト表示されている中から[その他(ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)]を選択します。
- 6 「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入してください。
ハードウェアメーカー提供のサポートディスク」と表示されますので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、 キーを押します。
- 7 「ハードウェアメーカーから提供された SCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラをインストールします。」と表示されますので、リストから[IDE CD-ROM(ATAPI)/IDE Controller]を選択します。
- 8 「セットアップはコンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました:<IDE CD-ROM (ATAPI)/IDE Controller>」と表示されますので、 キーを押します。
- 9 画面の指示にしたがい、セットアップを続けます。テキストセットアップ中「Windows NT Setup Boot Disk」をセットするように指示されるので、作成した「Windows NT Setup Disk1<置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットし、 キーを押します。また領域確保後に「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入してください。
Windows NT 4.0アップデートディスク」と表示されますので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、 キーを押します。
- 10 画面の指示にしたがい、セットアップを続けます。
- 11 テキストセットアップのセットアップが終了したら、フロッピーディスクドライブからセットアップディスクを取り出して本機を再起動してください。
- 12 再起動するとグラフィックセットアップが開始されます。ここでは、次の設定を行います。



Windows NT Server 4.0とWindows NT Workstation 4.0とでは、設定内容が異なります。

- ・ セットアップ方法の選択
- ・ 個人情報の入力
- ・ サーバーの種類の選択(Windows NT Server 4.0のみ)
- ・ 管理者アカウントのパスワードの設定
- ・ システム修復ディスク作成の選択
- ・ インストールするファイルの選択

- 13** 次にネットワークのインストールを行います。ここでは本体内蔵LAN インターフェイスを使用する場合について説明します。ネットワークに参加させる方法を、[ネットワークに参加する]—[ネットワークに接続]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
- 14** Windows NT Server 4.0の場合、Internet Information Serverのインストールするかどうかを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
- 15** ネットワークアダプタの検出画面が表示されます。ここでは、[一覧から選択]をクリックします。
- 16** ネットワークアダプタの選択画面で、[ディスク使用]をクリックします。
- 17** フロッピーディスクの挿入画面が表示されますので、「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、次のように入力します。ここでは、フロッピーディスクドライブをCDドライブとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

C:¥INTEL

- 18** OEMオプションの選択画面が表示されます。リストから「NEC PC-9821X-B06 (互換) PCI Adapter」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。
- 19** ネットワークアダプタの検出画面に、「NEC PC-9821X-B06 (互換) PCI Adapter」が表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
- 20** 次のネットワークアダプタの構成を行います。
 - ・ ネットワークプロトコルの選択
 - ・ ネットワークサービスの選択
 - ・ ネットワークの設定の確認
 - ・ ネットワークに必要なファイルのコピー
 - ・ NEC PC-9821X-B06 (互換) PCI Adapterの設定
 - ・ ネットワークバインドの調整
 - ・ ワークグループまたはドメインの参加

これで、グラフィックのセットアップの本体内蔵LANインターフェイスを組み込む手順が終了しました。後は画面の指示に従って設定を行ってください。Windows NT 4.0のセットアップが終了したら、「●ドライバをアップデートする」に進んでください。

●ドライバをアップデートする

Windows NT 4.0のドライバをアップデートします。「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、本機の機能を有効に利用するための最新のドライバが保存されています。ここでは、アップデート手順について説明します。

- 1 [スタート]メニューの[プログラム]—[コマンドプロンプト]をクリックします。
- 2 「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

C: <Enter>
CD ¥ <Enter>

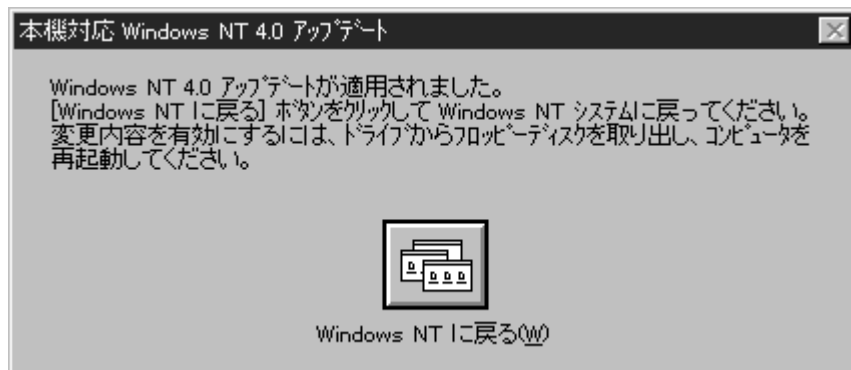
カレントが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

UPDATE <Enter>

- 4 次の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックして、アップデートを開始します。



- 5** コピー終了後、次の画面が表示されたら、[Windows NTに戻る]ボタンをクリックします



- 6** フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0アップデートディスク」を取り出します。
- 7** Windows NTを再起動させます。
[スタート]メニューから[シャットダウン]をクリックして、[コンピュータを再起動する]を選択し、[はい]ボタンをクリックします。

Windows NT 4.0が再起動したら、続けて「2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート」に進んでください。



- Windows NT 4.0セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、**[TAB]** キーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。
- Windows NT 4.0は、デフォルトでは自動電源断機能が有効になっていません。自動電源断機能を有効にする場合は、「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」をご覧ください、設定してください。

2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート

「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、内蔵アクセラレータの最新ドライバが保存されています。ここでは、内蔵アクセラレータドライバのアップデート手順について説明します。

「Windows NT 4.0アップデートディスク」に含まれている内蔵アクセラレータドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。
- 2** [画面] アイコンをダブルクリックします。
- 3** [ディスプレイの設定] タブをクリックします。
- 4** [ディスプレイの種類] ボタンをクリックします。
- 5** [変更] ボタンをクリックします。
- 6** [ディスク使用] ボタンをクリックします。
ドライブの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 7** 「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックします。

C:¥TRIDENT

- 8** [ディスプレイ] リストボックスから、「内蔵アクセラレータ(Trident Microsystems社製TGUI9682)」を選択します。
- 9** [OK] ボタンをクリックします。
- 10** ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。
- 11** [閉じる] ボタンをクリックします。
- 12** [閉じる] ボタンをクリックします。
- 13** 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」を取り出し、[はい] ボタンをクリックします。

3.Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3 の利用

本機でMicrosoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」(以下 Service Pack 3)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。

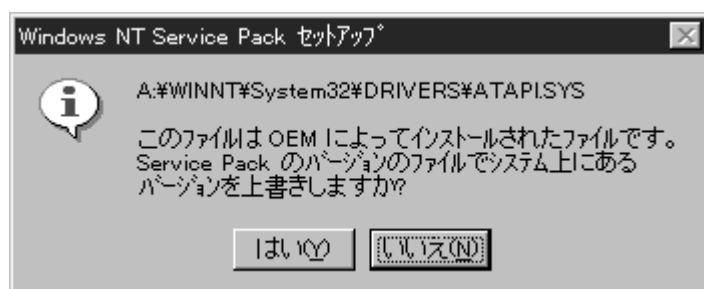


- Service Pack 3インストール時には、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- Service Pack 3をインストールする前に、Service Pack 3の「README.TXT」を参照してください。

1 Service Pack 3をインストールします。



Service Pack 3セットアップ時に、以下のメッセージが表示された場合は、「いいえ」を選択してください。



2 Service Pack 3ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。ここでは、[OK] ボタンをクリックしないでください。



3 [スタート]メニューから[プログラム]－[コマンドプロンプト]をクリックします。

4 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、Windows NTをインストールしたシステムドライブをAとして説明します。
実際と異なる場合は、読み替えてください。

A: 

CD ¥UPSP3 

カレントが、AドライブのUPSP3ディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE 

5 アップデート終了後、コマンドプロンプトを終了します。

6 [Windows NT Service Pack セットアップ]のダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックして、Windows NTを再起動させます。



Microsoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」についての詳しい内容は、「はじめに」の「■ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。

OS/2を利用する

本機でOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合の設定や手順について説明します。

OS/2 Warp V3-日本語版、 OS/2 Warp Connect V3-日本語版、 OS/2 Warp 4-日本語版の利用.....

本章にはOS/2インストール時の注意事項が記載されておりますので、OS/2をインストールする前に必ずお読みください。



- OS/2を使用する場合は、システムセットアップメニューの[動作環境の設定]で[16MBシステム空間]を[使用する]に設定してください。
システムセットアップメニューは[HELP]キーを押しながら電源をONにすると表示されます。使用方法については『ガイドブック』を参照してください。
- PC-9821 Ra266/D30RにてOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、インストール途中の[OS/2によろこ]の画面では、必ず[拡張インストール]を選択してください。
また、インストール時に[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込むことはできません。[OS/2の設定とインストール]ウィンドウでは、必ず[マルチメディアのソフトウェア・サポート]のチェックははずしてください。インストール完了後、[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込んでください。

■ディスプレイの設定

本機で、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、ディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

本機に搭載されているウィンドウアクセラレータを使用する場合、「●インストール途中のディスプレイ設定」では、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合は[TRIDENT社製TGUI9680内蔵アクセラレータ]、OS/2 Warp 4-日本語版の場合は[TRIDENT社製TGUI9680/9682内蔵アクセラレータ]を選択してください。

●インストール途中のディスプレイ設定

- 1 インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。

- 2** ここで、[ディスプレイ]を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



「本体 640×480 256色モード」を選択した場合、WIN-OS/2環境はご利用できません。

OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合は、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」内の「本体 640x480 256色 GRADD」ディスプレイドライバをインストールすると、WIN-OS/2ウィンドウ表示を使用することができます。インストール方法はOS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4-日本語版ご利用にあたって』を参照してください。

●解像度の種類

本機内蔵のアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、64K色、16M色*1
800×600	256色、64K色
1024×768	256色、64K色
1280×1024	256色

*1:OS/2 Warp 4 日本語版では、16M色表示は使用できません。

■CD-ROMの設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、CD-ROMドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

- 1** インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2** ここで[CD-ROM装置]を選択すると、CD-ROM一覧が表示され、使用したいCD-ROMを選択することができます。



内蔵CD-ROMをご使用になる場合、[その他の専用インターフェイスCD-ROM]を選択してください。

■ 拡張電源管理の設定

●OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版 をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、別途「OS/2 ドライバディスク」が必要です。「OS/2 ドライバディスク」の「拡張電源管理ドライバ」をインストールすると、ソフトウェアパワーオフ機能が利用できます。

なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

- 1 インストール途中で本機が再起動すると、[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2 [拡張電源管理(APM)]を選択すると、[拡張電源管理(APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。
- 3 [インストールしない]を選択します。



「OS/2ドライバディスク」は以下の方法で入手できます。

- オンラインサービスを利用する

「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されているインターネットおよびパソコン通信の各種サービスにより提供しています。

- フロッピーディスク送付サービスを利用する

申込先:NEC商品サービス株式会社(TEL:03-3770-8830)

●OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」の「ソフトウェアパワーオフ機能」をインストールする必要があります。インストール手順については、OS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4日本語版 ご利用にあたって』を参照してください。

なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

- 1 インストール途中で本機が再起動すると、[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2 [次ページ]ボタンを選択すると、[システム構成(続き)]ウィンドウが表示されます。
- 3 [拡張電源管理(APM)]を選択すると、[拡張電源管理(APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。
- 4 [インストールしない]を選択します。

■マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストール

PC-9821 Ra266/D30Rに関する内容です。

本機でOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストールは次の手順で行ってください。

- 1** インストール途中で、本機が再起動すると[OS/2の設定とインストール]ウィンドウが表示されます。
ここで[マルチメディアのソフトウェア・サポート]のチェックをはずします。
- 2** 全てのインストール終了後、[OS/2 システム]―[システム設定]―[インストール/削除]―[システム構成 機能の追加]アイコンを選択します。
- 3** [システム構成]ウィンドウが表示されたら、[マルチメディア]アイコンをクリックします。
- 4** [装置選択と設定]ウィンドウが表示されたら、[NEC PCM Sound Driver]をクリックし、[追加>>]、[了解]でマルチメディアを追加します。
- 5** [OS/2の設定とインストール]ウィンドウが表示されたら、[マルチメディアのソフトウェア・サポート]をチェックします。
- 6** 画面の指示にしたがってインストールを行います。

NetWareを利用する

本機で、NetWare(ファイルサーバ)を利用する場合の設定や手順について説明します。

NetWare® 3.12 J (ファイルサーバ)の利用...

NetWare 3.12Jを利用するには次の作業が必要です。

- NetWareのアップグレード
- SCSIドライバのセットアップ
- LANドライバのセットアップ

■NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- AIC6360.DSK (PC-9801-100対応ASPI SCSIマネージャ/
ハードディスクドライバ)
- NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)
- PC98ID.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)
- NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- N100B.LAN (内蔵100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODI
サーバドライバ)
- ETHERTSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- MSM31X.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- XLOAD.EXE (PCI対応NetWareローダユーティリティ)
- LOADER.EXE (PCI対応NetWareローダ)
- POFF3X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

- 1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
- 2 NetWareのSYSTEMファイルを、手順1でMS-DOSを起動したドライブにインストールします。
インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



インストールが終了すると、自動的に「SERVER.EXE」が実行されますが、アップグレードを行うため、サーバコンソールから「DOWN」と入力した後、「EXIT」と入力して終了してください。



SYSTEMファイルをインストールしたドライブおよびディレクトリを確認（メモを取るなど）しておいてください。

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブおよびカレントディレクトリを変更します。

CD ¥NW312 

- 4 次のように入力して、アップグレードを実行します。
<ドライブ名>、<ディレクトリ名>には、NetWareのSYSTEMファイルをインストールしたドライブ、ディレクトリを指定します。

UPNET312 <ドライブ名>:¥ <ディレクトリ名> 

（このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。）

例 UPNET312 A:¥SERVER.312 

- 5 「NetWare3.12Jのアップグレードが終了しました。」というメッセージが表示されたら、カレントドライブおよびカレントディレクトリを手順2でインストールしたドライブおよびディレクトリに変更してください。

- 6 本体内蔵LAN インターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、ここで手順2でNetWareをインストールしたドライブのディレクトリにある「NW312.TXT」を他の媒体にCOPYするか、または印刷などを行って内容が参照できるようにしておいてください。
NW312.TXTにはNetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細が記載されています。

- 7 コマンドプロンプトから次のように入力します。

XLOAD LOADER.EXE SERVER.EXE /LD 

- 8 NetWareの「SERVER.EXE」を実行して、ファイルサーバをインストールします。インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。
- 9 SCSIインターフェイスボードのセットアップを行います。PC-9821X-B02L、PC-9801-100をお使いの場合、セットアップの方法は「■SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。
- 10 B4680インターフェイスボードのセットアップを行います。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lをお使いの場合、セットアップの方法は、「■LANドライバのセットアップ」をご覧ください。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06L以外のB4680インターフェイスボードをお使いの場合は、B4680インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。
- 11 本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップを行います。詳細は手順6のNW312.TXTを参照してください。
- 12 電源制御ユーティリティのセットアップを行います。セットアップ方法は、後述の「■電源制御ユーティリティのセットアップ」を参照してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

■SCSIドライバのセットアップ

SCSIドライバには、次の4種類があります。

- AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- AIC6360.DSK (PC-9801-100対応 ASPI SCSIマネージャ/
ハードディスクドライバ)
- NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)

●AIC7870.DSK

Adaptec社の提唱するASPI(Advanced SCSI Programming Interface)に対応したSCSIマネージャで、PC-9821X-B02Lをお使いの場合に使用します。使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

```
LOAD [パス名] AIC7870 [コマンドオプション]
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)
```


コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

SLOT= PCIのデバイス番号に16を加算した値を指定することができます。省略した場合、デバイス番号の候補が表示されますので、その中から選択して番号を指定することもできます。

VERBOSE= SCSIアダプタの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。

●AIC6360.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したSCSIマネージャで、PC-9801-100をお使いの場合に使用します。

使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] AIC6360 [コマンドオプション]
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

PORT= PC-9801-100で使用するI/Oポートベースアドレスを指定できます。省略した場合、候補が表示されますので、その中から選んで番号を指定することもできます。

SYNC= ドライバ初期化時の同期転送ネゴシエーションの有無を指定できます(デフォルトはON)。

ON 全デバイスに対して同期転送ネゴシエーションを行います。

OFF 同期転送ネゴシエーションを行わず、BIOS設定に従います。

VERBOSE= 本ドライバの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。



- ・「SBACKUP.NLM」を使ってバックアップを行う場合、「TAPEDAI.DSK」をロード後、「SBACKUP.NLM」をロードしてください。また、DIBI- IIドライバは、DIBIDAIをご利用ください。
 - ・ハードディスク以外の装置(CD-ROM、DAT)については、別途ドライバが必要です。たとえば、CD-ROM装置には「ASPICD.DSK」、またはサードパーティ製ASPI仕様CD-ROMドライバが必要です。
-

●ASPICD.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したCD-ROMドライバです。
 使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] ASPICD
 (自動的にNECASPI.DSKもロードされます)



ASPI仕様のSCSIマネージャがロードされていない場合、CD-ROM装置を認識できません。

■LANドライバのセットアップ

B4680インターフェイスボード(SV-98/2-B05/B06、およびSV-98/2-B05L/B06L)および本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06を使用する場合のセットアップ方法について説明します。

NetWareのインストール方法や用語などについては、NetWareのマニュアルをご覧ください。

●B4680インターフェイスボードのセットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなLANドライバのロード行を追加します。

LOAD [パス名] PB4680 [コマンドオプション]

LANドライバをロードする際に指定できるコマンドオプションは、FRAME、BOARD、NAME、NODEの4種類です。

FRAME LANドライバが使用するフレームタイプを指定します。
 FRAMEオプションに指定可能な値は次のとおりです。

Ethernet_802.2
Ethernet_802.3
Ethernet_SNAP
Ethernet_II

各フレームタイプの詳細は、NetWareのマニュアルをご覧ください。1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てる場合には、BOARDオプションとともに指定してください。FRAMEオプションを指定しない場合はデフォルト値としてEthernet_802.2となります。



FRAMEのタイプがファイルサーバとワークステーションで異なると通信ができませんので、注意してください。

BOARD 1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てるときに指定します。1つの物理ボードに1つのFRAMEしか割り当てない場合は必要ありません。BOARDオプションの値はユーザによって決められます。

BOARDオプションで指定できる値の範囲は、1～9999です。

たとえば、1つの物理ボードに4つのFRAMEを割り当てる場合、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_II BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_SNAP BOARD=1
```

NAME 物理ボードに複数のFRAMEを割り当てた際、プロトコルとバインドを行うための名前を定義します。

たとえば、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1 NAME=E_8023
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1 NAME=E_8022
BIND IPX TO E_8023 NET=XXXX
BIND IPX TO E_8022 NET=YYYY
```



NET= で指定される値(上記例では、XXXXとYYYY)は、1～8桁の16進数です。詳細については、NetWareのマニュアルをご覧ください。

NODE ユーザがノードアドレスを指定するためのオプションです。NODEオプションを指定した場合、指定したノードアドレスのローカルビットが自動的に設定されます。

```
例 00004C000001 (指定したアドレス)
    ↓
    02004C000001 (使用されるアドレス)
    ↓
    0010 (2進数表現)
    ローカルビット
```



通常、指定する必要はありません。NODEオプションがない場合、LANDライバはボード上のROMのノードアドレスを使用します。ROMのノードアドレスから変更の必要性が生じた場合のみ指定してください。

●複数枚ボード実装時のLANDライバのロードについて

本ボードを2枚以上実装した場合は、それぞれのボードに対してLANDライバをロードする必要があります。

たとえば、3枚のボードを実装した場合は、AUTOEXEC.NCFファイルに次のようなLANDライバのロード行を追加します。

LOAD A:PB4680 ← 1枚目のボード

LOAD A:PB4680 ← 2枚目のボード

また、STARTUP.NCFファイルに次のような行を追加してください。

SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG=200

「MEG=」には、設定可能な最大値を設定します。詳細は、NetWareのマニュアル、またはSETコマンドで確認できます。

最大値はNetWare 3.12Jでは「200」、NetWare 4.1Jでは「300」です。



本インターフェ이스の最大実装可能枚数は、本機のPCIスロット数に制限されます。

●本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップの詳細は、NW312.TXT(NetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細)を参照してください。

●LANDライバのロードについての注意事項

PC-9867およびPC-9868のインターフェイスボードを使用する場合、LANDライバ(PC4680.LAN)は、ほかのLANDライバより先にロードしてください。

AUTOEXEC.NCFにLANDライバの設定をしている場合は、PC4680.LANのロード行をほかのLANDライバのロード行より前に記述してください。

■電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareファイルサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

●セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

LOAD <パス名> POFF3X [コマンドオプション]

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時	電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。
LOCK	LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

NetWare® 4.1 J (ファイルサーバ)の利用....

NetWare 4.1Jを利用するには次の作業が必要です。

- NetWareのアップグレード
- SCSIドライバのセットアップ
- LANドライバのセットアップ

■NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- | | |
|---------------|--|
| • AIC7870.DSK | (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ) |
| • AIC6360.DSK | (PC-9801-100対応 ASPI SCSIマネージャ/
ハードディスクドライバ) |
| • NECASPI.DSK | (ASPIトランスポートレイヤ) |
| • ASPICD.DSK | (ASPI対応CD-ROMドライバ) |
| • PC98ID.DSK | (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ) |

- NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- N100B.LAN (100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODIサーバドライバ)
- ETHERTSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- MSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- POFF4X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- 1.2Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚

このフロッピーディスクには「NetWare4.1Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。

- 2 用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットします。

- 3 MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントディレクトリを変更します。

CD ¥NW41 

- 4 次のように入力します。

UPNET41 <フロッピーディスクドライブ名>: 

(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。)

- 5 「NetWare 4.1Jのアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、「NetWare 4.1Jアップグレードディスク」の完成です。

- 6 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。
インストール手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



PC-9801-100、PC-9821X-B02L、内蔵ハードディスクや内蔵CD-ROMをお使いの場合、インストール中に表示されるディスクドライバの選択画面で、**[INS]** キー(リストにないドライバのインストール)を押して、**[F3]** キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥

ディスクドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lまたは本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06をお使いの場合、インストール中に表示されるネットワークドライバの選択画面で、**[INS]** キー(リストにないドライバのインストール)を押して、**[F3]** キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライバ名を指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥

ネットワークドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

- 7** NetWareのインストールが終了したら、サーバのコンソール画面で次のように入力してインストールユーティリティを起動します。

LOAD INSTALL

- 8** [インストールオプション]の画面で、「プロダクトオプション」を選択してください。

- 9** [その他のインストール操作]の画面で、「リストにはないプロダクトのインストール」を選択した後、**[F3]** キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリのパスの指定ウィンドウが表示された後、「アップグレードディスク」のドライブとディレクトリを指定してください。

例 C:¥

10 ファイルのコピーが終了したら、後述の「■電源制御ユーティリティのセットアップ」をご覧ください。AUTOEXEC.NCFファイルを書き替えてください。

■SCSIドライバのセットアップ

「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「■SCSIDライバのセットアップ」をご覧ください。

■LANドライバのセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップの詳細は、アップグレードディスクのNW4X.TXT(NetWare 4.1Jサーバのインストールの詳細)を参照してください。

その他のLANDライバのコマンドオプションについては、「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「■LANDライバのセットアップ」をご覧ください。なお、LANDライバのロード行のバス名は記述しないでください。

■電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareファイルサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

●セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルのSYSボリュームをマウントさせる記述の後に、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

LOAD POFF4X [コマンドオプション]

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時	電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。
LOCK	LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

IntranetWare / NetWare® 4.11J(ファイルサーバ)の利用

IntranetWare/NetWare4.11J(以降はNetWareと呼びます)を利用するには、次の作業が必要です。

■ NetWareのアップグレード

■ NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- ・ PC98ID.DSK(内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライブ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ 1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク: 1枚

このフロッピーディスクには「IntranetWare/NetWare4.11Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。
- 2** あらかじめ用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 3** MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントディレクトリを変更します。

CD ¥INW 

- 4** 次のように入力します。

UPINW <フロッピーディスクドライブ名>: 

(このコマンドの最後に¥をつける必要はありません)

- 5** 「IntranetWare / NetWare4.11Jアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、「IntranetWare / NetWare 4.11Jアップグレードディスク」の完成です。

- 6** 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。
インストール手順については、NetWareの「インストール」マニュアルをご覧ください。



内蔵ハードディスクや、内蔵CD-ROMドライブをお使いの場合、以下の手順に従ってください。

- 1 インストール中に表示されるサーバドライバの選択:概要画面で、「選択したディスク/LANドライバの追加選択あるいは変更」を選択し、PC98ID.DSKを選択してください。
- 2 ディスクドライバの選択画面になります。「選択したドライバの選択解除」を選択してください。ドライバ名一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。
- 3 「追加ドライバの選択」を選択してください。[INS]キー(リストにないドライバのないインストール)を押して、[F3]キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥

ドライバの一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。

NetWare® 3.12J/4.1J(クライアント)の利用....

NetWare 3.12J/4.1Jのクライアント環境は、NetWare付属のWSINST.BAT(3.12Jの場合)またはINSTALL.EXE(4.1Jの場合)を使用してインストールすることができます。

■本体内蔵LANインターフェイスを使用する場合

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、以下の手順でクライアントアップグレードディスクを作成してください。なお、インストールの詳細はこのアップグレードディスクのNWODIDOS.TXT(DOS ODIクライアントインストール詳細)を参照してください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・1.2Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚

このフロッピーディスクには「NetWare クライアントアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。
- 2** あらかじめ用意したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
CD \NWCLIENT
```

```
UPNWCLI <フロッピーディスクドライブ名>
```

例 フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

```
CD ¥NWCLIENT
```

```
UPNWCLI C:
```

(このコマンドの最後に「¥」をつける必要はありません)

- 4** 「NetWareのクライアントアップグレードディスクを作成しました。」というメッセージが表示されたら「NetWare クライアントアップグレードディスク」の完成です。
NetWareのインストール作業の途中で、このフロッピーディスクを使用します。
- 5** インストール作業の途中でLANドライバの選択メニューでは、「他のドライバ」を選択し、「NetWare クライアントアップグレードディスク」の¥(ルート)ディレクトリを指定するようにしてください。



LSL.COMは下記のバージョン以降のものを使用する必要があります。

LSL.COM 2.16

LSL.COMのバージョンが上記より古い場合は、ドライバディスクの¥(ルート)ディレクトリにあるものを使用してください。

その他のソフトウェアを利用する

本機で、別売のソフトウェアを利用する場合の設定や手順について説明します。

N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版) Ver6.2の利用



- N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)Ver 6.2は、Windows NT上では動作保証していません。
- 本機では、N88-BASIC(86)およびN88-日本語BASIC(86)Ver 6.3は利用できません。

●テキスト画面についてのご注意

テキスト画面を使用する場合、WIDTH命令を使用して表示する<桁数>を40桁に設定することはできません。

●グラフィック画面についてのご注意

グラフィック画面を使用する場合、SCREEN命令を使用して<画面モード>を白黒モードまたは高分解能白黒モードに設定することはできません。

●Windows 95上でのご注意

Windows 95上で使用する場合は、MS-DOSモードを起動してご利用ください。
Windows 95のMS-DOSプロンプトを起動して使用することはできません。
次にMS-DOSモードを起動させる手順を説明します。

- 1 Windows 95の[スタート]メニューで[Windowsの終了]をクリックします。
- 2 [Windowsの終了]画面から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。
- 3 [はい]ボタンをクリックして、MS-DOSモードを起動させます。

MS LANマネージャの利用.....

この章では、本機でMS LANマネージャを利用する際に必要となるアップグレード作業の手順と強化機能について説明します。

■MS LANマネージャのアップグレード

本機で、本体内蔵LAN インターフェイス/MS LANマネージャリモートアクセスサービスを利用する前には、次の手順でアップグレードを行ってください。

本機で、本体内蔵LAN インターフェイス/MS LANマネージャリモートアクセスサービスを利用するにはあらかじめ、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。

- ・ 以下のいずれかのLANマネージャ
 - ・ 日本語マルチベンダLANマネージャ2.1A MS-DOSクライアントパック
 - ・ 日本語マルチベンダLANマネージャ2.1Aサーバパック内のMS-DOS LANマネージャワークステーション
 - ・ 日本語マルチベンダLANマネージャ2.1c

ただし、本体内蔵LAN インターフェイスを利用する場合、LANマネージャのネットワークアダプタドライバの設定を「ドライバなし」でセットアップしてください。

MS-DOS LANマネージャおよび、MS LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール／構成方法については、次のそれぞれのマニュアルをご覧ください。

- ・ LANマネージャ2.1Aをご使用の場合
 - 「MS-DOS LANマネージャ2.1セットアップガイド」
 - 「MS-DOS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド」
 - 「MS-DOS LANマネージャ2.1Aご使用に際して」
- ・ LANマネージャ2.1cをご使用の場合
 - 「MS-DOS LANマネージャ2.1セットアップガイド」
 - 「MS-DOS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド」
 - 「Microsoft Windows NT Server 3.51の内容について」

アップグレードでは、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・フォーマット済みのフロッピーディスク:1枚
このフロッピーディスクには、「LANマネージャアップグレードディスク(機種名)」と書いたラベルを貼っておきます。機種名には、お使いの機種名を書いてください。

●「LANマネージャアップグレードディスク」の作成

「LANマネージャアップグレードディスク」の作成は、システムが購入時の状態か、はじめての電源ONの時に作成した「保存用フロッピーディスク」からシステムを再セットアップした状態で行ってください。

- 1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
- 2 用意しておいた「LANマネージャアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、「LANマネージャアップグレードディスク」を作成します。

XCOPY <ドライブ名>:\LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>: /S [F5]

<ドライブ名>は、MS-DOSがインストールされているハードディスクのドライブ名を指定します。

例 MS-DOSがインストールされているドライブがAドライブ、フロッピーディスクがCドライブの場合

XCOPY A:\LANMAN C: /S [F5]

作成したフロッピーディスクは、本体内蔵LANインターフェイスドライバのインストールおよびMS LANマネージャリモートアクセスサービスのアップグレードの際必要となりますので、大切に保管してください。

●本体内蔵LANインターフェイスドライバのインストール

- 1 「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブをLANマネージャをインストールしたドライブに変更します。

<ドライブ名>:[F5]

例 LANマネージャをAドライブにインストールしている場合

A:[F5]



- 2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをLANマネージャをインストールしたディレクトリに変更します。

CD <ディレクトリ名> 

例 LANマネージャをLANMAN.DOSディレクトリにインストールしている場合

CD LANMAN.DOS 

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力してLANマネージャのセットアッププログラムを実行します。

SETUP 

- 4 [表示・変更]メニューの[ネットワークドライバの登録]を選択し、[新規設定]を選択します。

- 5 [ネットワークアダプタドライバ]画面が表示されたら[その他のドライバ]を選択します。

- 6 [ドライバまたはプロトコルファイルのコピー]ダイアログボックスが表示されますので、「LANマネージャアップグレードディスク」をセットしたドライブを指定し、[了解]を選択します。

<ドライブ名>:

例 「LANマネージャアップグレードディスク」をCドライブにセットしている場合

C:

- 7 [その他のネットワークアダプタドライバ]ダイアログボックスに[PC-9821X-B06(互換)/Intel EtherExpress PRO/100B]と表示されます。ここで、[了解]を選択すると、必要なファイルのコピーを行います。

- 8 [ネットワークプロトコル]ダイアログボックスが表示されたら、以降の操作は通常のLANマネージャセットアップと同様に行います。

- 9 セットアップが終了したら、本機を再起動してください。

●MS LANマネージャリモートアクセスサービスのアップグレード

- 1 MS LANマネージャリモートアクセスサービスをハードディスクにインストールします。
MS LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール方法は、『MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド』をご覧ください。

- 2 作成した「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをフロッピーディスクドライブに変更します。

<ドライブ名>: ⌂

例 「LANマネージャアップグレードディスク」をCDドライブにセットしている場合

C: ⌂

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを\LANMANディレクトリに変更します。

CD LANMAN ⌂

- 4 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードプログラムを実行します。

INSTRAS <ドライブ名>:<LANマネージャのディレクトリ> ⌂

<ドライブ名>、<LANマネージャのディレクトリ>には、それぞれMS-DOS LANマネージャをインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

例 ドライブAの\LANMAN.DOSディレクトリにLANマネージャをインストールしている場合

INSTRAS A:\LANMAN.DOS ⌂

- 5 ファイルのコピーが終了すると、自動的にリモートアクセスサービスのセットアッププログラムが起動します。ここで、[構成]を選択し、ポートとモデムの再構成を行ってください。

- 6 セットアップが終了したら、本機を再起動してください。



■MS LANマネージャの強化機能

ここでは、「MS LANマネージャのアップグレード」の手順に従ってアップグレードしたMS LANマネージャの強化機能について説明します。

●MS LANマネージャで本体内蔵LANインターフェイスを利用する

本機では、本体内蔵LANインターフェイスを利用して100Mbpsの高速転送を利用することができます(ただし、100Mbps対応のマルチポートリピータ、ネットワークケーブル使用時のみ)。

本機で本体内蔵LANインターフェイスを利用する前に、上記で作成した「LANマネージャアップグレードディスク」にある「README.TXT」をご覧ください。

●MS LANマネージャリモートアクセスサービスで38400bpsの通信速度を利用する

MS LANマネージャリモートアクセスサービスでは、38400bpsまでの通信速度が利用できます。Windows 3.1上でご使用の場合は、19200bpsより高速な通信速度は使用できません。

- ・ PC-9801-101 RS-232C(第2～第3回線用)拡張インターフェイスボードを使用する場合は、インターフェイスボードに添付されているドライバはインストールしないでください。
- ・ PC-9861K、またはPC-9801-101拡張インターフェイスボードをご使用の場合は、それぞれのインターフェイスボードでサポートされている最高の通信速度までご利用になります。
- ・ モデムカード2400(PC-9801N-J01)、FAXモデムカード(PC-9801N-J05)を使用する場合は、次の点に注意してください。
 - ・ 活線挿抜機能は使用できない
 - ・ 通信速度は、それぞれのPCカードでサポートされている最高通信速度まで使用できる
- ・ FAXモデムカード(PC-9801N-J05)を使用する前には、FAXモデムカードセットのFAXモデムカードメニュー(MODEMSET.EXE)を使用して、RS-232C回線番号をCOM2またはCOM3に設定してお使いください。
FAXモデムカードメニューの使用方法については、FAXモデムカード添付の『FAXモデムカードセットご使用に際して』をご覧ください。

TCP/IP通信制御ドライバの利用

MS-DOSおよびWindows 3.1環境において、TCP/IP通信制御ドライバを使い本体内蔵LANインターフェイスを利用するには、次の手順に従いインストールを行う必要があります。

本機で動作可能なTCP/IP製品は次の通りです。

TCP/IP通信制御ドライバ(Windows版)(Ver1.0)以降

インターネットソフトウェアセット(エンリ)(Windows版)(Ver1.0)

インターネットソフトウェアセット(スタンダード)(Windows版)(Ver1.0)



- TCP/IPとMS-DOS LANマネージャを同時に使用する場合は、LANマネージャのセットアッププログラムを使用してインストールしてください。詳しくはTCP/IPのマニュアルを参照してください。
- TCP/IPをNetWareと共存させる場合は、NetWareのインストール終了後、TCP/IPのマニュアルに従ってインストールしてください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- フォーマット済みの2HDフロッピーディスク:1枚
このフロッピーディスクには、あらかじめ「ネットワークアダプタディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。



1. ネットワークアダプタディスクの作成

「ネットワークアダプタディスク」の作成は、システムが購入時の状態か、はじめての電源ONの時に作成した「保存用フロッピーディスク」からシステムを再セットアップした状態で行ってください。

- 1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
- 2 あらかじめ用意した「ネットワークアダプタディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、「ネットワークアダプタディスク」を作成します。

```
XCOPY <ドライブ名>:\LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>:\ /S
```

<ドライブ名>は、MS-DOSがインストールされているハードディスクのドライブ名を指定します。

例 MS-DOSがインストールされているハードディスクのドライブがA、フロッピーディスクドライブがCの場合

```
XCOPY A:\LANMAN C:¥/S
```

2. TCP/IP通信制御ドライバのインストール

TCP/IP通信制御ドライバのマニュアルに従いインストールを行います。

- 1 インストールプログラムを起動してください。
- 2 使用するネットワークアダプタの選択画面で、「その他のボード」を選択し、1.で作成した「ネットワークアダプタディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。
- 3 以降はインストールプログラムの指示にしたがってください。



本体内蔵LANインターフェイスを使用時には「RAMウィンドウアドレス」を使用しませんので、以下のファイルの修正は必要ありません。

- ・ MS-DOS 5.0A以上でUMBを使用する場合、CONFIG.SYSファイルの EMM386.EXE /E オプションの設定。
- ・ Windows 3.1をエンハンスドモードで使用する場合、SYSTEM.INIファイルの EMMExclude パラメータの設定。

プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用

MS-DOS 6.2およびWindows 3.1環境でプラグ&プレイ対応ボードをプラグ&プレイモードでご利用になる場合は、別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアが必要となります。本機でプラグ&プレイサポートソフトウェアを利用するには、必ず以下の手順でアップグレードを行ってください。

1. アップグレードディスクの作成
2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

1. アップグレードディスクの作成

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ 2HDのフロッピーディスク:1枚

2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** 本機の電源をONにして、内蔵のハードディスクからMS-DOSを起動します。MS-DOSのメニューが表示されている場合は、メニューを終了して、コマンドプロンプトの状態にしてください。
- 2** 「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。このときフロッピーディスクは書込可能状態にしておいてください。
- 3** FORMATコマンドを使って「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」を初期化します。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

FORMAT <フロッピーディスクドライブ名>: /U /F:1.44 

- 4** アップグレードモジュールを「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」にコピーします。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

FBACKPNP <フロッピーディスクドライブ名>: 

2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

- 1 別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールします。インストールが完了すると、「本機を再起動してください。」という内容のメッセージが表示されますが、再起動せずにコマンドプロンプトの状態にしてください。

インストールの手順については、『プラグ&プレイサポートソフトウェアコンフィグレーションユーティリティユーザズガイド』を参照してください。

- 2 「1.アップグレードディスクの作成」で作成した「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更します。

<フロッピーディスクドライブ名>: Ⓜ

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードを行います。

- ・プラグ&プレイサポートソフトウェアのDOS版をインストールした場合

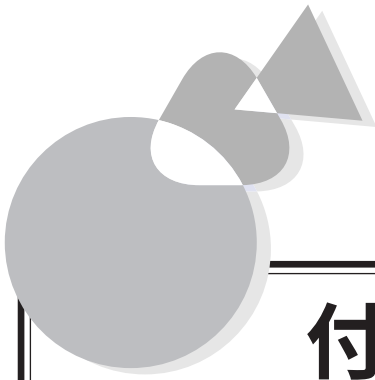
UPPNP <ドライブ名1>: ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名> Ⓜ

- ・プラグ&プレイサポートソフトウェアのWindows版をインストールした場合

UPPNP <ドライブ名1>: ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名>
<ドライブ名2>: ¥<Windows 3.1ディレクトリ名> Ⓜ

<ドライブ名1>には、プラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールしたドライブを、<ドライブ名2>には、Windows 3.1がインストールされているドライブを指定します。

- 4 アップグレード終了後、本機を再起動してください。プラグ&プレイサポートソフトウェアがご使用になれます。



付録

本機を利用するための補足情報です。

●固定ディスク起動メニューの利用

固定ディスク起動メニューの利用

ここでは、本機で固定ディスク起動メニューを利用する上での必要事項について説明します。

■固定ディスク起動メニュー

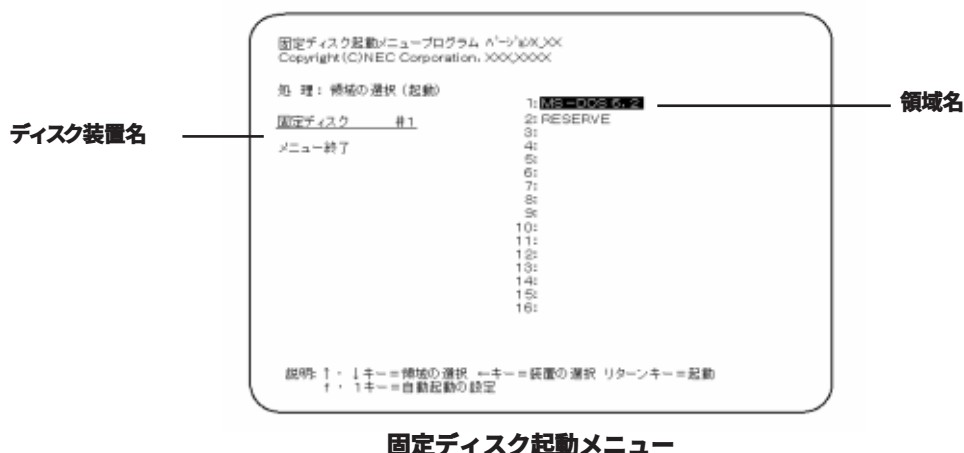
「固定ディスク起動メニュー」では、ハードディスクのどの領域(ドライブ)から、システムを起動するかを選択することができます。

「固定ディスク起動メニュー」を表示させるには、キーボードの[TAB]キーを押しながら、電源をONにしてください。このとき、「ピピピ…」と音が鳴るまで[TAB]キーを押したままにしてください。

ただし、固定ディスク起動メニューを表示させてシステムを起動するには、次のうち、どれか1つを満たしている必要があります。

- BOOT可になっている領域が複数ある場合
- 本機内蔵ハードディスク以外に別売のハードディスクを増設した場合

本機はご購入時には2つの領域に分けられていますが、BOOT可が1つに設定されているので、[TAB]キーを押しながら電源をONにしても、固定ディスク起動メニューは表示されず、内蔵ハードディスクのMS-DOS 6.2が起動します。



「固定ディスク起動メニュー」の画面では、どのディスク装置のどの領域(ドライブ)からシステムを起動するかを選択できます。

画面左には、ディスク装置名が表示されており、同じインターフェイスごとに1から順に装置番号が付けられます。また、画面右には下線が付いた装置内の領域名が表示されています。

システムを起動するには、↑、↓、←、→キーで起動したい装置、領域に反転表示をあわせて、[Enter]キーを押します。

なお、「BOOT」が「不可」になっている領域や、「状態」が「スリープ」になっている領域は選択できません。

●自動起動の設定

[固定ディスク起動メニュー]を表示しないで、あらかじめ指定したハードディスクの指定した領域から自動起動することができます。自動起動の設定を行うと、次回起動時からは固定ディスク起動メニューは表示されません。

自動起動の設定を行うには、次のように操作してください。

- 1 [固定ディスク起動メニュー]が表示されているときに、自動起動したい領域を反転表示させ、**[F1]** キーを押します。
- 2 「選択した領域を自動起動に設定しますか(Y/N)?」というメッセージが表示されるので、**[Y]** キーを押します(**[N]** キーを押すと自動起動の設定は行われません)。
- 3 次のように表示されて、自動起動に設定されます。

- ・ 領域名の横 「*」
- ・ 画面右下 「*は自動起動に設定された領域です」

なお、複数の領域を自動起動に設定することもできますが、この場合の優先順位は次のようになり、最初に認識された領域から起動します。

内蔵固定ディスク(装置番号小→大)
↓
SCSI固定ディスク(装置番号小→大)
↓
光ディスク(装置番号小→大)

●自動起動の変更/解除

自動起動の変更/解除は、固定ディスク起動メニューで行います。

自動起動に設定されていると、固定ディスク起動メニューは表示されませんので、次のような操作で固定ディスク起動メニューを表示させます。

- 1 装置の起動時にキーボードの**[TAB]** キーを押し続けます。
- 2 「ピピピ…」という音が鳴ってから**[TAB]** キーから指を離します。
- 3 固定ディスク起動メニューが表示されたら、次のように操作します。

- **変更する場合**

キーを押して自動起動を解除した後、「自動起動の設定」と同じ操作を行ってください。

- **解除する場合**

自動起動を解除したい領域名を反転表示させ、 キーを押します。

